

## 質問12

現在、多くの自主防犯活動団体が高齢化・人材不足などの問題を抱えています。あなたは、自主防犯活動への参加者を増やしていくために何が必要だと思いますか。また、特に若い世代(20代～40代)に自主防犯活動団体に参加してもらうためには、どのような取組や工夫が必要だと思いますか。

意見
普段からこどもになれている方、少年野球やサッカーのコーチなどは誘い込みやすいのではないのでしょうか？そこから若い人も参加しやすい雰囲気になっていければと思います。
関心を広げるために、防犯の具体例など呈示されるといい
・活動をしているのはよく見かけるが、実際に参加するためにはどこに連絡をしたらいいかわからないので掲示板や回覧板、広報に募集記事を載せたり、連絡先の記載をした方が良いと考える。 ・お年寄りが多いのでどうしても若い人はその輪の中に入りづらいと思うので、1度若い人だけ集めた体験会などをすると良いと考える。
若い人が受け入れやすいようなデザインのユニフォームを作るとか新しい自主活動団体の名前を募集する。 Instagramで活動の様子を投票する
大学のボランティアを紹介する部署を通した学生への紹介を進める。(私の大学ではボランティアセンターなる課があり、大学周辺の自治体のボランティア活動とのマッチングが行われている。) なかなか、自分からボランティアの団体や自治会に入るのが難しいと感じる。私の大学の近くの日野市の自治会のイベントへは友人や先輩など知り合いを通じて集まった人が参加している。やはりきっかけとして人の紹介がないとそうした地域のコミュニティに入って行くのは難しいと感じます。 ですので、人と人とを繋げていく取り組みが必要ではないかと思います。 また、若い世代は忙しく頻繁の活動だと参加できないので、月1回のペースでも何かしら地域のために活動できるというモデルケースを示し、誰でも気軽に参加できる事を示せば良いのではないかと思います。
多くの人に呼びかける。
インターネットを使った広報活動(TwitterなどのSNS含む)
小学校の児童に、兄弟や保護者向けの自主防犯活動団体に参加してもらえるかの可否を含めた広報紙を配布する。
SNSを活用した呼びかけが良いとおもう
幼い頃から自治体に関わりを持つような企画を用意し、近所の同世代と高齢者との関わりを積極的に持つようにしないと、なかなか自主防犯活動に参加する気にはなれないと思う。

## 意見

成人式で久しぶりに同級生と再会したことを思い出しましたが、成人式で同級生と再会する際に、ボランティア活動を募る方法もあるかと思います。

学校などと協力し、授業の一環として一度やってみると、その後も継続して参加してくれる人が出てくるのではないかと思う

SNSを通じて、広報活動を行う。  
地域住民との交流。

情報を周知する

体験をさせる

まず若い人に知ってもらえるような工夫が必要だと思う

まず、自主防犯活動団体の「古い」イメージを取り払う必要があると思います。地域の学生と連携し、SNS等を活用して学生目線で広報すると良いのではないかと感じます。

学生時に参加する機会を設ける。一度でも経験をすれば、参加へのハードルが下がると思う。若い人が多く参加する機会を設けるには学校からの働きかけが必要だと感じる。

### SNSの活用

退職された方が行っていると思っていました。若い世代も募集していたことをこのアンケートで知りました。

宣伝媒体を、snsなど若者の身近なものにする。また、マンガを使って宣伝する。

参加特典があると参加率が上がると思います。ポイント制で、商品券や割引券、カタログギフトなどが貰えたら嬉しいです！

若者になじみの深い媒体、SNSなどでの情報発信や啓発する側でも若い職員などが情報発信を行うことで若者との距離感を少しでも軽減することが必要だと思います。

知り合いからのお誘いなどがないと、なかなか難しいかも……。詳しい体制や行動なども知りたい。

SNSが多く使われているので利用すべき

仕事をしている人たちや子育てしている人たちの参加は厳しいと思います。

最初は強制的に参加させてみる

若い世代は、個人個人ではなく、団体(複数人)に呼び掛け、団体で参加してもらうのが一番良いと思う。友達と一緒になら、腰が重い人も動かしやすい。例えば(実現可能かはさておき)大学のサークルに呼び掛けたり、友達同士でかたまって居るときに声を掛けるなど。

## 意見

負担が大きすぎると参加の意思は薄れますが、朝の限られた時間に参加できるなど、内容をもっと公開していくと良いのではないかと思います。

土日祝日なら可能であると思うが、仕事をしていると休日は貴重であるため、無償だと難しいと考える。例えば飲料水やその地域のスーパーやコンビニなどで使用できるサービス券などを配布すれば、若い世代の参加率が上昇するのではないだろうか。

防犯活動についてまずは広く知ってもらい認知を高める。

## 謝礼

働いている方でも参加出来る日時にしたり、子供連れの家族が参加しやすいように町内会と連携して活動を実施したりする必要があると思います。

「歩いている人」という印象しかなく、参加意義を感じない。

大学等のゼミ活動に取り入れるよう、広報をする。

割れ窓理論に乗っ取り、美化運動を進める

どう考えても広報活動が足らなすぎる。  
「自主」防犯なので、行政が介入したくない気持ちも充分にわかるが、高齢者には広報媒体を使う力がないのなら、器ぐらいは行政が用意してあげてもいいのではないのでしょうか。(私は埼玉県民なので、埼玉のしかフォローしていませんが、ツイッター、フェイスブック共に県も市も積極的に広報媒体として使われていると思います。)  
若い人がそれで釣れたら、あとはその方に任せたらいい。

気軽に参加しやすい内容(事前登録不要など)で、情報はネットで知ることができればいいと思う。

高齢者が増えていくにつれて若者が負担する形になっていくので、若い世代が主に参加しているのは厳しいと思う。世代の逆ピラミッドの上のほうの人が中心に動かないと若者は動かない。

若い世代に限らず「自分たちの地域は自分たちで守る」という意識を定着させる施策が必要と感じます。また、活動に参加することによって地域コミュニティの活性化にもつながると思います。

私もですが、地元で働いていない場合は移動時間などの関係で活動できる時間が限られます。それでもかまわないという雰囲気や誰でも参加できる環境であることが第一だと考えます。県や市町村が取り組んだとしても、結局はその団体の方々との関係が良好でなければ参加しなくなりますので。

どういうところに危険があるか、とかいう情報を流せば、興味を持つ人が増えると思う

近隣の会社や店舗等に協力を求める？

## 意見

強制参加ではないこと。  
地域の活動団体は古くから住む人たちのグループができていて賃貸や一時住まいの人が参加しにくい気がします。  
ツイッターやLINEなどSNSを利用し、若い人がアイコンとなって呼びかけると行きやすいのではないかと思います。

参加者を増やしていくためには知らない人も多いので呼びかけが必要だと思います。  
若い世代については、自分や自身の家族のことが優先されるため参加してもらうことは難しいと思います。

子育て世帯に向けたものにし、子供といっしょに活動ができるものにする。  
例えば、支援センターや児童館などのイベントで体験してもらう。

参加者だけのメリットがあること

例えば、企業に勤めている人だったら、活動が会社で評価されるとか、安易かもしれないがメリットがないと難しいと思う。

周知

子育て世代は時間がなく、わざわざ時間をとってと言うのは難しいと思う。  
通勤のついで、お休みの買い物ついで等ついでにできるのならば、参加が少しは増えると思う。

参加者に地域振興券などを配布する

高齢化は問題だと思うけど、若い人の参加はあくまでも個々の任意で良いと思う。

仕事や学校で忙しい世代は参加が難しいと思う

若い世代の参加者の話が聞けたらよいと思います。

若い世代は働きざかり、育児真っ最中で忙しい。  
防犯活動が仕事の一環として認められたり、パトロール中にこどもの宿題や、夜ご飯を食べさせておいてくれるのであれば参加したくなると思いました。

参加することで何か資格や修了証がもらえたりすると良いかも？また、ボランティア活動としては地域の見回りだけという印象があるので、パソコンの得意な人が月報を作るなど、色々な特技を生かせるというところもアピールすれば良いのでは。

炊き出し

煩わしいと思ってしまう。無理して参加者を増やそうとしないでいいと思う。  
不審者が増えるなど、困った事態が起きてから対策を練れば良いと思う。

## 意見

余裕のある時だけ気軽にできるように簡単に登録や参加を行えるようにする。通勤や通学、犬の散歩などのついでに防犯パトロールや見回り活動をするような協力者を募るのも良いのではと思う。

まずは、参加者を募るのではなく、「あなたが一人一人がわがまちの防犯隊」という意識づくりをすべき。その延長でもっとやりたい！という意気込みのある人に参加してもらうべき。気軽に参加できることや、参加のメリットが伝わるリーフレットの作成があると若い人も参加できるのではないかと。

そのような活動が年配の方々の仕事という認識がある。ウォーキングイベントと一緒にやる、スタンプラリーと組み合わせる等、最初のきっかけがあれば関心が湧くのでは。

- ・行政機関から委嘱を行う。
- ・参加者を過度に拘束をしない。
- ・学校との連携を深め、児童生徒の保護者にも啓発する。

時間的余裕があれば、子供の為にも参加したいと思うが、実際厳しい。通勤や買い物などのちょっとした時間をうまく使えるような、個人的な防犯活動なら参加できそう。

町内の人たちが声をかける。

参加賞みたいなものが出たら嬉しい

物的証拠がとれる簡易カメラの貸出。ヘルメットカメラの貸出。  
ネット上での情報共有の場を設置する。  
すべてが時代遅れなのでもっと近代化することから始める。  
時代に合わない世帯には、直接会いに行くなどする機会を設けることでデメリットを埋め近所付き合いも得ることができる。

仕事・育児・家事で、基本的には、無理があると思う。  
子供との参加型であれば、参加率は増えると思う。

仕事や家族との団らんを考えると若い世代の参加は難しいと思う。  
地域だけでの対応ではなく、警察も同行し、社会科見学や地域で活動している警察とのコミュニケーションを取る機会、また犯罪に合わないための対策を教えもらいながら、自分のためになる内容であれば子どもとも一緒に参加したいと思う。

若い世代は報酬できまる。

ボランティアという考えが根強いので、対価が必要だと思います。

自主的にやっていることを知らなかった。  
アパートで、地域の人とほとんどつながりがない。  
自分も子どもが学校にあがるまで、まったくわからなかった。  
パトロール以外にも気軽に参加できる交流会などあってもいいと思う。  
若い人にとって、活動のメリットがほとんどないので、そこを考えた方がいいと思う。

若い世代は一番下の子供の子育てが落ち着かないと、なかなか参加できないと思う。それでも参加を促すのであれば、よほどのインセンティブがないと難しいと思う。

## 意見

まずはそういった活動団体の存在を知らせることから始めるべきだと思います。  
※成人式なんかは効果があるのかな？と思います

## 魅力的報酬の用意

休日に行く  
手当てをつける

大学や企業に協力を求める

若い世代との交流が必要だと思う。世代が違えば考え方も違うのでそこでぶつかり合わずにお互いが歩み寄る姿勢が必要だと思う。

若い世代は、参加したくても、いつやっているのか、何をやるのか等の情報が入ってこないからやらないんだと思います

平日勤めの場合、そもそもそのような活動に参加するのは難しいのが実情である。  
家の周りの地域ではなく、職場の周りの団体に参加する(会社が参加させる)など、異なる手法でないと参加できない。

近所などで交代制でやる。

近所の方々との交流。強制ではなく、出れる時だけ、やれる時だけでいようにする。

余暇を過ごす高齢者と違い、若い世代は余裕のない生活を送っていることも考慮して下さい。  
その点から、無償で労働する気はないと考えれば、その時間分相当の金額もしくは同等の現物を提供するぐらいでないと増えないでしょう。結局は対価が必要です。

子連れokにする

やれる人がやらないと、出来ない活動だとは思う。  
仕事などで出来ない人も多いので、強制ではもっとやらないと思う。

普段の活動や人の輪が大事。自治会にも仕方ないけど年配者のみ。入り辛い。ポイント制や、時間の融通を考えてほしい。

お互いに不公平感のない活動への参加ができるかどうか。  
活動への参加の(各々の)意味

## 職場の理解

仕事と生活の全体的なバランスが良くないから参加しないのではなくて参加できないのだと思う。

やり方を固定化せずに若い人がいたらその人の意見ややり方にもまかせること  
全てダメ出してボランティアでは誰もやらない

警察官や自衛官等を退職された方にオファーしてみてもいいかがでしょうか。

## 意見

警察を中心とした、意識向上教育

防犯効果の可視化

若い世代は働き盛り世代なので参加をするのは難しいと思う！  
例えば、土日を活用し、地域のために防犯活動になります。それからTwitterやFacebook等の活用をしながら市町村との連携に図るべきです。

まずは知ってもらうこと。  
護身術の講習会などあったら面白そう。

高齢者中心の今の世の中では無理である。高齢者のみで行えば良いと思う。

人手不足の時代ですから仕方がないと思います。  
それを補うのが科学技術なのは。  
町中いたるところに防犯カメラ設置の方が効果的だと思います。  
ただ、人的な活動も心の交流が必要な場面もあるかもしれないから、活動は必要なときもあると思う。

拘束・強制しない

活動を知ってもらうような取り組み。

参加することでイベントに参加できたり特典があったりすれば良いのでは？と思う

活動時間・活動場所・活動人数の流動性を持たせる

仕事をしていると、参加出来る時間帯に限りがあるので難しいと思います。あと、その年代の方でお子さんがいないと参加を前向きに考えられないと思います。定年退職され、時間に融通がきき、地域の安全について考えてる方が一番適任に思います。

必要性を発信する。  
高校、大学、企業として、その地域で参加してもらう。

若い世代は人手不足の労働市場を担いかつ、一つ下の世代を生み育てる活動も担っているの  
で、そもそも若い世代をそのような活動に持ち込もうとすること自体が間違いだと考えている。  
(自治会の活動ですら、会長や班長の押し付け合いになっている現実を目の当たりにしているなら、  
こんな提案が通るわけないこと自体理解できると思う。)  
高齢化と言いながら、定年を迎えても活発な世代はいるので、そちらの活用を優先すべき。  
若い世代に対して副業を国が推進しているのだから、そんなに若い世代をこのような活動に  
引っ張り出したいのなら、副業になるような金銭的対価を自治体・県・国が出すべき。

負担の少ない貢献でも受け入れられること。

意見
チラシを学校通して配って知ってもらおう
若い世代のみで作られた団体
気軽さ
仕事をしている世代なので、参加したくてもなかなかできないのが現状だと思う。何かの会合と抱き合わせで行ったり、
小さな子供を育てている方が多いと思うので、家を空けてしまうと子供に留守番させることになる。子供を学校の図書館に預かってもらえれば活動できる方もいると思う。
働いてるからなかなか難しいと思う、
SNSなどで啓発する。
若い世代は仕事をしている人が多く、多忙であるので参加が難しいと思う。人とのつながりを作れる機会や、子連れでもよい雰囲気があれば平日育休中の主婦や専業主婦も参加したくなるかもしれない。私自身5月に出産し、今月まで育休だったが家にいると子どもが機嫌が悪くなるので毎日散歩しかすることがなかった。公民館のイベントなどに参加していたので、子連れでもよいなら掲示板やイベントなどで告知してはどうかと思う。
自治会の高齢化と閉鎖性を改善する工夫が必要。
まずは地域の活動に参加して顔見知りを作ることが大切だと思います。参加しやすくなれば、人も集まってくるのではないのでしょうか。
時間場所を定めず自由参加のほうが参加しやすい。こどものお迎えの時間に合わせて、買い物のついでに、など。
情報提供にネットやSNSを活用する。
忙しい人が多いので難しい
参加回数はおののちにまかせること
子どもの教育の一環として、親子で参加する防犯活動や防犯教育
頭ではわかっているが、子供会で交通整備や夏休み巡回はしているが負担が大きい。人数を増やし回数を減らす工夫。また、数年前に防犯活動をしていた者が事件を起こしニュースになったので、やたら任せるのも不安。
子どもが小学生になるまで存在を知らなかったもので、とにかく周知する事と、活動が重荷になると嫌なので、気軽に参観出来ればいいと思います。



## 意見

土日参加、不定期休みの方にも参加しやすいように一回限りでもOKにする。

防犯活動をする事でどんな利点があるのかを公表する。

子育てと仕事が忙しくて無理

金品の授与がないと難しいと思います。

労働時間が長時間化し、また夫婦共働きが標準形態となっている現在においては、そもそも構造的に若い世代が自主防犯活動団体に参加するのは不可能であるので、そこを解決しない限り自主防犯活動団体が高齢化・人材不足の根本的解決は原理的にあり得ない。

SNSなどの活用。

地域内での呼びかけ、休日だけでよいなど機会の拡大

SNSやアプリなどスマホを使って気軽に調べたり参加したりできる仕組み。

活動を行ってる方の受け入れる姿勢、参加しにくい雰囲気だとはいりづらい

学校に協力してもらい、PTA活動の一環にする。

小さい子どもを持つ親であれば自主防犯活動の必要性を感じるので、学校や幼稚園・保育園などで参加を呼び掛けるのがよいと思います。

ゆとりと時間を下さい。

具体的にどんな活動(時間、場所など)をしているのか、年配の方、若い世代の交流の場があれば、参加者が増えると思います。

Webなどをスマホやタブレットでも見やすくすると思う

子育て世代にとうのは、難しいと思います。  
ある程度時間と心に余裕がないとできないと思います。ptaとタックルを組むと早いかと思いません。

## 意見

人口減や高齢化が進む中で増員は厳しいものがあります。

それよりも自治体主導でIT活用を進めてはいかがでしょうか。  
犯罪率の減少とそれによる防犯予防コストの低減につながり、IT投資費用も吸収できるのではないのでしょうか。(仮説検証必要)

犯罪の発生率が高い地域を抽出して至る所に防犯カメラを設置し、自動画像解析により、異常行動の解析とアラート機能、警察や民間防犯組織との連携など。

政府のかかげるIoT時代の到来を埼玉県が実践しモデルケースとなる試みになろうかと思いません。

面白さがあつたり、お得感があつたりしないと難しいのかもしれない。  
健康増進課の健康マイレージとコラボして地元のお店や商店街の商品と引き換えクーポンがもらえたりしたら良いのでは。地域の活性にも繋がる。

基本的にまとまった時間を取ることが難しいと思うので、短い時間でも活動を歓迎する、参加日を固定させない(もしくは月1回、週1回など)、子供がいる方には、子供たちも一緒に参加が出来るようにするといった、閉鎖的にならないような取り組みがあると良いと思います。

当番制あるいは自治会で話し合っただけ負担がかからないように自主自律、互助といった考えで進めていく方法があると思う。  
ほかの自治体での取り組みにおける事例を紹介し、意識の醸成を図る。

参加したい気持ちはありますが子育てや仕事をしていると時間的気持的な余裕が無いのは事実です。  
あとお年寄りとのやり方の違いもあります。  
若い世代の参加は子供の幼稚園、学校法人なのを通して参加を呼び掛けるのはいかがでしょうか？

自主防犯活動に限らず、地域ボランティアは基本的に「その場にいる」という時間で人を拘束する構造があるので、勤め人にはなかなか貢献したくても難しいケースがある。一方で効率のいい組織運営や活動支援、ネット広報などその場にいなくてもできる貢献が多くあるように感じる。そのような門戸を開いてほしい。

親子で参加できるような、ポイントを貯めると何かと交換出来るような企画を!

ボランティア活動して下さる方へ、任意額で寄付する仕組み作りなどをするなどして、シルバー人材センターなどの方にボランティア活動費を支払うなど地域で依頼できる仕組みが必要。まだ働ける高齢者にとっても、運動、交流の場になって健康にもよいし、薄謝でも年金+αができることもメリットとなるかと思えます。

若い世代が参加するには、それに参加する余裕の時間が無いと難しい。  
職場の理解や、参加することで何らかのメリットがないと難しいと思う

参加しやすい雰囲気と、時間短縮

学校と地域がタッグを組んで、できるだけ多くのPTA関係者を中心に活動者を増やしていくべきだと思う。

<b>意見</b>
参加するとポイントが貯まる
平日は労働者は難しいと思います。人材不足の日本において高齢者の活躍を期待します
街コンなどで参加を呼び掛ける
若い世代だと時間がなかなか取れない現実があります。
60代以上のリタイアされた方がたくさんいるんだから、若い世代を増やすんじゃなくて、高齢者を起用すべき。健康にも役立つし、孤独問題の解決にもなると思う。
若い世代主体で考えてもらうことが必要
若い世代の参加は難しいと思います。 当番制にするとか町会や学校からの指示がないとやらないと思います。
婚活につなげる
防犯活動に参加すると、若い世代が興味を持ちそうな体験会などに参加できるといいと思う。 護身術のやり方の体験とか、講習会とかは聞いているだけでつまらないけど、体を動かすような体験会に無料参加できる特典とかついてたらいいかも
もっと積極的に活動をPRする必要がある
若い世代は難しいと思います。子供の下校時間に見守り隊の方達が行動していますが、その時間は夫はもちろん仕事、私は子供が帰ってくるので留守には出来ませんし。やるとしたら土日ですが、若い人がやるよりも定年を迎えた方達がやる方がその方達もやりがいがあって楽しいと思います。
情報の提供、参加のハードルを下げる
カッコの良い制服を作ると良いと思います。
若い世代は共働きや子育て世代が多いので自主防犯活動に参加したくてもできない現状です。 なので、活動日時を柔軟に設けるとか、ある程度の年齢のいった子ども連れOKにするなどといった取り組みをすると良いと思います。
ボランティア頼みでは限界があるので、費用の手当て。ただし、仕事を犠牲にすると終身雇用の時代でもないの、やはり会の活動は優先しづらい。
若い人たち向けのイベントなどを行う

## 意見

若い世代は共働きで子育てをしていて、参加したくても時間の余裕がないため報酬でもない限り難しいと思う。引退して元気な方たちに活躍してもらいたい。

わんわんパトロールのように、参加者の日常に合った活動を、考え出すこと。

それなりの報酬がないとその世代は動かないと思います。  
時間はお金です。

どんどん地域でふれあいの場が必要だと思います。

## 社会の認知が必要

親子で参加できるプログラム、例えば落書き消しや違法広告物撤去などを通じて参加の機会を広げる

入りやすさ、活動のしやすさ(時間に縛られない等)

自助・共助・公助の自助と共助の重要性を理解させる必要があると思います。

他者から要請されてやるのでは続かないし使命感も醸成されない。自身が気づくことが必要だが、外部からのどういった働きかけが有効かまでは分からない。

高額報酬。  
法律による防犯活動参加時の特別有給付与。

地域団体とPTAが連携する。

子供を持つ世帯の強制化、不公平があると、参加しなくなると思う。

会社で参加するなどの工夫

時間を幅広くとること。  
インターネットでの広報。

時間の制約以外にも、多世代交流が煩わしいと感じる人もいるのではないか。日常的な地域の繋がりを深める取組を行うことで、様々な地域活動への参加に繋がるように思う。

まずは存在を知ってもらうことから。  
次に活動を理解・共感してもらう。  
参加はその後。

子ども同じ学校、同学年の親が一緒だったら、参加しやすいかもしれない。

短い期間、時間だけでも気軽に参加できる体制づくり。

<b>意見</b>
参加することでポイントがもらえて、たまったポイントを地元の特産品などと交換できるような仕組みを作る。
自分の子供を守るために前面に出していく。
周知徹底をはかる。
参加したくても、その機会が無いので、公募して頂きたい
講演会や説明会などを開いて多くの人に活動の意味を知ってもらう
正直、働いてる世代は無理かも…。
子育て・仕事をしながらでも活動しやすい時間
共働きが増えていて、若い人に活動してもらうにも、限界があると思います。シルバーなど市などで人材を雇って行わないといけないと思います。
若い世代は多忙なため、働き方の改善が地域活動への参加率アップにつながるのではないのでしょうか。
参加した人への特典が、あると良い。
ボランティアではなく、賃金が発生してもいいと思う。
仕事をしている世帯が多いので、週一回でも構わない！等の、配慮なりが必要であると思います
説明会や、若い世代が目にする情報源への情報提供
広報の仕方、実施日程
<b>金</b>
今参加している高齢者の意識を変えることが長いようで一番の近道だと思う ボランティア活動などに興味がある人は多いのに参加率が低いのは仕事や家庭で忙しいのもあるが若者が参加しにくい雰囲気を作っている感じがする 古くからこのような活動をしている地域は町全体でよい雰囲気作りをしている その雰囲気がなければ参加しても長続きはしない 今いる人たちが変わらないといけないということを一番に自覚するべきだと思う
ネットなどを利用した広報

## 意見

空いてる時間に自由に参加出来れば良いと思う

若い世代は仕事などで忙しく、日中の活動は難しい。  
また、活動者は高齢者というイメージがあり、時間があっても若い人がそこに参加するには勇気(?)が必要だと思う。  
新規に若い人の団体を立ち上げたほうが、若い人は参加しやすいと思う。  
活動に対して報酬を出すなど、目に見えるメリットもあったほうが良い。

フルタイムで仕事をしていると、決められた時間に活動をするのは難しいです。仕事帰りに家の周りを一周するとか、本当に短時間になりますが、小さい範囲や短い時間でもできることからの参加を認めてもらえると、その先につながるのではないのでしょうか。

公務員がおこなう。

何か子育て支援的なことがあるといい

何でも無償で強制参加させるから減るのでは。  
いつも同じ顔触れになっていると、話を聞いている。

減税や、何かの優遇措置を与える。

若い世代と言われても、専業主婦にばかりこういう仕事を押し付けられるイメージが有る。  
地域より我が子を守りたいので、  
ボランティアに頼らず少額でもバイト代でも出せば良いと思う  
見守りとともに、ごみ拾いも兼ねて

地域のネットワークによる勧誘

正直、平日に活動を行うには若い世代には負担にしかならないと思います。  
なので、20代では大学に依頼するなどしてみては。

参加できるときに参加してもらって緩い繋がりを維持する

防犯ベストを着用するのであれば、若い人が身につけても恥ずかしくないようなデザインにしたり、子どもも参加できるようにするなど。

私は持病があり、生活保護を受けさせていただいているので、時間はあると思うのですが、働いてらっしゃる方たちは、休みや自由な時間はなるべく体を休めることに使いたいと思うのではないのでしょうか？ どうしても時間に余裕のある方や定年で退職なされた方など高齢になってしまうのかなと思います。

若い世代は忙しいので自分にメリットがないと興味が湧かない。

職場で、その活動に参加することをOKにする制度や仕組みをつくること

## 意見

若い人たち向けのイベントや、交流の場を作る機会を設ける

広報活動、ゆとりある就業

僅かな時間でもよいから、参加できる体制の整備。

月1回でも可、夜間や休日のみでも可なら参加しやすいと思う

暇な方はぜひ健康のためにもなるし歩いて欲しい

活動の啓発

ボランティア保険等、最低限の経費負担、懇親会等、イベントの定期共催

子供も一緒に楽しくできる活動があれば

具体的に成果が出ているのであれば税金から給与を支給すれば良いと思う。

ツイッターなどのSNSを利用したり、ポイント制度などを設けたりすると良いと思う

まとまって活動となると、働く世代には厳しい。  
個別に地域を回り、活動報告をするなど、いくつかの形態を作れば参加しやすい。  
また、小学校のPTAでボランティアとして募るのも良いと思う。

子供を預けられないとできなかつたりする場合もあるので、そうした人でも参加できるような活動があれば良いと思います。  
またやはりそうした活動する人を募集するといった情報を見たことがないので、その活動をやってみたいと思っても出来ない場合もあるのではないのでしょうか。

忙しい20代～40代を参加させるには、それなりの大きなメリットが必要に感じる。

なかなか参加する時間がない

サークル形式。  
ヨガやダイエットエクササイズの後の帰りながらの見回りなど

学校のPTA活動ですら時間が取れない世代です。なかなか難しいと思います。  
個人的には、人手を出すか、お金を出すかだったら、お金を出します。  
もちろん限度がありますが。

## 意見

まずは自治会への参加促進だと思います。

単身の若い世代の参加を見込むのは、難しいと思う。  
学校のPTAを中心に、参加を促したらどうか。

商工会メンバーやスポーツ少年団指導者などへ協力要請

公平に参加できるような仕組み。偏った人になり負担がいかないような工夫。

まずは広告等PR

会社の理解。遅刻早退にならないよう理解してほしい。

拘束時間や取組の多様化

特に地方は日中家にいるのは年寄りばかり、若い人は参加は難しい

みんなに知っていただくことが大事

世代間の考え方の相違は否めないの、若い人の取り組みや意見を聞くことができる団体の環境も必要。これまでやってきたことの尊重も大事だが、若い人が考える将来のビジョンも尊重することでお互い考えて実行できる環境作りが大事。

強制しすぎず多少の融通がきく

活動をポイント制にして、何か特典を設ける仕組みにしたら良いと思う。

日時を含め、若い人たちが参加しやすいようにする。  
またそういう雰囲気を作る。

わずかでも謝礼のようなものがあるといい

駅やスーパー、コンビニなどでの広報があれば知るきっかけとなるかもしれない。

私自身40代ですが、子供が小学一年生で地域の方々にお世話になっております。その中で思うのは、きっかけさえあれば参加したい人は多くいると思います。広報・アナウンス次第だとも思います。

職場での推奨があれば、若い世代にも伝わるかと思う。



## 意見

回覧板などの呼び掛けをする

参加するとポイントがたまって、何か特別な体験ができる。など。

声掛け。もっと積極的に仲間を増やそうと活動しなければならないと思う。  
実際に活動されている隊員さん達が訪問するなり、簡易イベントなりを行うと良いと思います。

## 意識の改革

どんなことをするのか、もっと教えて欲しいです。

私の家はマンションで、町会費もまとめて払っていますが、地域との繋がりは希薄だと思えます。幼稚園から中学、あれば高校まで、子どもの所属する場を通して活動を補佐できると取り組みは継続できるのではないのでしょうか。また、当番の頻度を低くするために多くの家庭に参加いただければ、各家庭の負担にもならず、地域の防犯にみんなで参加できるということにもなります。共働き、一人親、独居老人、独り暮らしの若者など色々な環境があるかとは思いますが、他人任せの精神が防犯を妨げるということも知って欲しい。

呼びかける情報手段に、メールやSNSをつかう。

## 親子で受け継ぐ 大学等への宣伝

確かに若い方は居ないんですね。仕事をしていたり、子育てをしていたり、子供を塾習い事への、送迎。などで、時間があわない。自治会への不参加が、最近は若い家族が多い。アパート、マンションは特に多い。当番に当たったとしても居やがらないでめんどくさいと思わないで出来る環境あったらいいですね。

時間拘束しない。  
各家庭にパトロール着や腕章？を配布し、犬の散歩や近所への外出時にパトロール着等を着用するだけとか簡単なものにしたらいい。

子供を持つ親は防犯への関心が高いとは思いますが、仕事を休んでまで参加するのは現実的に難しい。休日の夜間であれば活動に参加することも可能なので、参加しやすい環境づくりをして欲しい。また、団体の組織や具体的な活動を詳しくは知らないため、広報等を通じてPRして欲しい。

人材不足なのは企業の労働者も同じ。若い世代になんでも期待しになって貰おう的風潮では解決しない。少子高齢化は今後ますますわかっているのだから、防犯カメラを多数設置。AIで自動判別、警戒アラーム等、人力に頼らずにすむ仕組みを考えるべきである。

皆余裕が無いので具体的なメリットが必要。謝礼や特典などが大きければ参加も増えると思う。

## 意見

カメラの設置など、人に頼らない施作を考えても良いのではないかと思います

忙しいから無理。

自主防犯は個々人の心構えの部分が多いのだから、それさえあれば都合の良い時だけ参加するのでも全く構わないという雰囲気  
絶対に強制感がないようにする

地域のコミュニティの関係が希薄になっているのが原因と思われるのでその点から改善していくのが良いと思います。

ポイント制度  
子どもと一緒に参加できるようにする

子供会と自治会で協力して子供たちの自治会事業への参加(資源回収など)を誘導することにより、将来的な若い世代の参加につながると思う。

各所にある掲示板でのPR施策

ゆとり教育世代に参加させるのは絶対無理。私の世代(40代半ば)くらいまでが、なんとか参加する(いやいやでも)意志があるのでは？

町内会の活動もそうだが、年配者ばかりが企画し内輪受けすることを楽しむのではなく、仕事や育児に忙しい世代にこそ耳を傾け、参加しやすく声を上げやすい雰囲気を作って欲しい

ウォーキングもかねてというような感じで参加をうながす

手軽に取り組める方法作り。(グッズを貸し出し、個人でも出来る。愛犬家の散歩をパトロールと兼ねる)

付き合いが出来上がっている中には、入りづらい。若い世代は回覧板を読まないなので、個別で声をかける方が入って貰える格率は高いと思う。

高齢者には、活動したら粗品をあげてはどうですか。  
若い世代には、コンテスト形式にして選出し興味を持たせ、誇りを持って活動できるようにすると良いと思います。

少しばかりの報酬(お金ではなく)を付けると良いと思います。

学校教育の一環で学生にも参加させる

## 意見

・パトロール活動などへの参加に義務的な意識が伴わないように工夫する必要があると思う。参加できる時間があるときに、自由に参加できる雰囲気が必要だと考えます。

・年長者が若者へ接する際に、古くからの考え方を一方的に押し付けるのではなく、若者の意見や考え方も尊重する環境作りが必要。

## 自覚させる

若い世代の方々の活動に参加してもらうには、その活動時間内に帰宅していることが必要だと思います。  
仕事も残業があったり、かつ、地元のことも…ということは申し訳なくなります。悪循環にならないように、環境整備が必要だと思います。

## 参加の自由度を高める

時間に縛られない活動がよいように思う

## 地域密着型の体勢づくり

20～50代の世代には無理だと思います。休日などなら都合がつくかもしれませんが、毎日忙しいので。防犯以外にもボランティアが課せられており(学校PTAなど)興味はあっても時間がありません。  
それよりももう少し上の世代で増やしていくほうがよい。できればポイントをためると何かほんの少しのものでもよいから(図書カードとか)もらえたらうれしいと思います。

長時間労働の是正や子育てへの負担感の軽減が行われない限り、参加者は増えないと思うので、長時間労働の是正と子育て家庭への更なる支援を行っていくしかないと思う。

若い人に手伝いたいという気持ちを持たせる。

## 頻繁な啓蒙活動

特に子育て世代において、各PTA(幼稚園・保育所・小中学校)との連携が必要だと思う。

仕事をしている人は、自分の時間で参加するのが難しいと思う。  
地域にある会社等で、勤務として防犯活動に参加できるのであれば、地域貢献になると思う。

我が家は自営業なので家族が参加している。人数は多くないが青年団が活発なので若い社員の参加者もぽつぽついる。

チラシなどはあまり効果がないと思います。「一本釣り」が効果的です。  
ひとりが一人の人に直接誘う方法です。多少付き合いがあれば「ちょっと行ってみようかな」と思ってくれ、飲み会なども含め居心地が悪くなければまた参加してくれます。  
また、セクハラをする人がいると効果激減です。

## 意見

柔軟な組織運営と参加・脱退の容易さ

まずは、自治会の夏祭り等のついでに活動をする。家族全員で参加しやすかったら良いかと思う。  
夜の散歩イベントとして企画してみたら良いかも。

仕事とのかねあいで、どうしても活動時間帯は狭い。PTAの活動等を減らしてもらえれば、参加できる人が増えるのでは？PTAの活動として行っても良いかもしれないが、これ以上保護者の負担は減らしたいので、難しい。

メリットがないと若い子はなかなか難しいと思います。功績を称えて表彰するとかテレビとかで取り上げてもらえば良いかと思います。

働き方改革をもっと推し進めること

若い世代は参加したくても、活動時間帯に自分の自由が利かない場合が多いと思われます。また、PTA等別途の活動もあり、そちらに時間を取られる事が多いと思います。これらの活動とコラボレーションしてもらえれば参加が増えるのかもしれないと思います。

休日だけや短時間の参加など、気楽に参加できる環境を整えること。  
年よりの長話に付き合わなくても大丈夫な環境を作ること。

住民税などの減税措置。

仕事や子育て、介護などで時間が取りにくい人でも、都合がいい時に短時間でも気軽に参加できるような仕組みが欲しい

ただ広報やHP等に掲載しても、たとえ目にしたとしてもわざわざ連絡して加入する程熱心な人などそうそういないはず。  
地域活動を通して声をかけ集めるのが効果的かと。

広報活動で、もっと募集情報を拡散する  
高校生や大学生のボランティア活動として募集すれば若い世代の参加も見込めるのではないかと

仕事の休みの日など、無理のない範囲で気軽に参加できるように出来たら良いのではないのでしょうか。

勤務先との調整があるので、行政が主体的に企業へ呼び掛ける

ショッピングセンターでゲストを招いて関連トークをしてもらう

子どもと一緒に参加できるようにしたり、地域でイベント開いたりしてもいいのではないかと思います

## 意見

若い世代が参加するのは理想的ですが、職種も様々であるし、時間も制約があるので、意欲があっても出来る人が行うというスタンスでしか無いと思います。  
参加者を増やす努力についても、そもそも日本全体が高齢化、人材不足であることは明白なので、最終的には個々のやる気・意欲の部分だと思っています。

学校などの単位で参加するなど

子供会などを通じてパパママネットワークの活用

時間の融通がきくこと

あまり、時間場所を指定せずに個人の外出(子供の送迎)防犯プレートを付けるとか、散歩に防犯タスキをしてもらうなど簡単な形で、参加してもらえば、子育て世代でも参加しやすいのではないのでしょうか？

子供がいる世帯を中心とした、訴えかけ。

子育てが一段落して、介護のない家庭が、一番参加しやすいと思うが、現状参加したくても出来ない状況だと思う。自分も参加したいが、そのための仕事の早退は考えられない。どうしたら良いのか、わからない。

自主防災に限らず、あらゆる面で各世代が地域活動に協力しなければなりません。  
伝統的にリタイア組が主体でやる風潮になってますが、まずは意識改革から行わなければなりません。  
仕事が忙しいと前面に出されるとしようがないという事になると思いますが、地域活動に参加しないと逆にデメリットが出てしまう仕組み作りが必要だと思います。  
それには職場の理解が得やすい対策も必要ではないでしょうか。  
具体例は地域の事情が異なるので共通項はなかなか見出しにくいとは思いますが、まずは各学校や市町村に所属する会社とのコラボを増やすことから始めた方が良いと思います。

負担感なく、思い付きですぐ参加やキャンセルできる体制

何かの特典をつける。  
必ず出席という義務にしないこと。

地元警察の指導の元、最小限の組織作りを検討する。  
地域の事案が分かるYahoo!の防災アプリ等の普及を推進する。

活動についてのアピールをする。  
活動に参加する事によるメリットを伝える。

## 意見

学校の単位認定に組み入れてもらう、他団体との連携で単位積み上げ制度の一部となる、学校の単位認定、民間の認定制度の一部、インターンシップ制度の一部となるなど金銭ではない、でも自身がそれに関わったことを何らかのかたちとして示せる制度の一部になるなどはあるべきでは  
地域の防犯への貢献とかいう狭いコミュニティ内でのかたちのない美徳を追ってても特に若い世代にアピールがあるとは到底思えない

活動内容などを、わかりやすく紹介して欲しい。

参加してもらう必要があるのかが疑問

仕事をしていると難しいのでは

活動内容を地域全体に周知する！

学校単位で保護者中心で行う

有料化。仕事や家事をしている人は、かなり厳しいと思う。

ポイント制などで若干の謝礼とか。

大学生を対象に科目単位にする、履歴書に書ける、などの利点を大学や企業に交渉して認めてもらう

若い世代は時間がないので無理だと思う。  
時間がある人たちがやればいい

有給にしても良い

まずは自治会に入ってもらい、たまにでもいいので当番でやってもらう。

定年を過ぎた60歳代の人が積極的に地域活動に参加すればいいと思う

参加賞のようなものを渡す

地域の小中学校の参観日等で..

行ったら何か特典ないと絶対行かない。例えばクーポンとか何かの割引券

若い世代は働き世代なので時間的問題の融通をまずクリアしていかなければならないので幅広い時間の中で活動時間が選択できることが必要だと思います

## 意見

地元の状況は、ほとんど高齢者ばかりですが、それが悪いこととは思いません。むしろ、若いひとには消防団など体力の必要な活動をしてもらうほうが、適材適所だと思います。

地域という感覚が上の世代ほどないだろうし、自分も若いときにはなかった。若い世代はそれなりにガーディアンズなどの活動をしているグループもあり、参加させようと思うのは、少し違うだろう。もっと根本的な地域とのかかわりという部分を積み重ねないといけない。

平日夜や休日に活動すること

学校を通じてのお手紙配布、地域の活動、班長会議の時の宣伝などPRを増やす。若い人の仕事が休みの土日に活動していること、土日だけでもOK、参加できるときのみでOKということのアピールする。

20代～40代は、他にやるべきことがあると思う。年金生活者に向いている活動だと思う。団塊の世代が退職しているのだから、高齢者でまかなえそうに思う。自主防犯活動が盛んな地域に住んでいるが、高齢者男性が子供や子連れの女性に親切なように思う。地域への愛情を感じる。自分の住んでいる地域に愛情あつての活動のように思う。

本人に関係あることだと認識してもらう

20～40代は仕事や家族のことなどで多忙を極めるところだと思います。若い世代が参加するのはかなり難しいと思います。核家族化が地域活動の参加を妨げていると思います。自主的な活動を望むのは難しいと思います。こういう言い方はよくないかもしれませんが、現金支給などの手当てがないと参加を促すことは難しいのではないかと思います。

参加したくても  
どうしたらいいのかが分かりにくい

会社勤務で時間がとれないので、企業の協力や理解が必要

防犯活動に限らず、若い世代は土日も関係なく仕事がある。地域はまずその点を理解すべき。一律に参加を強制するのではなく、各自都合の良い曜日や時間帯に活動できるよう、柔軟な体制作りをして欲しい。

夏休みや冬休み時に、学生からボランティアを募ってみる。  
部活で定期的に道路でマラソンしているようであれば、何か異常を見かけた時に報告してもらう、など。

小学校のPTAがやっている当番制の巡回補導などと連携して協力を求めたりするといいと思います。

無理のない、時間と自分の子供を守る気持ち

<b>意見</b>
講習会
さまざまな職業の人が活動できるような環境。 時間、曜日、場所の配慮
活動にメリットを与える。 (育児の手助けなど)
若い世代の経済的・時間的余裕が増えない限りは難しいと思う。
学校で参加を募ればよいと思う。
わからない。(この活動以前に子供会や町会等の参加も激減している為 減る一方です) 極論はお金やその他の対価が無いと若い人は難しいのかも。。。
年配の方々のやり方や意見を押し付けない。 自由なやり方を許容していただけるといいのではないのでしょうか。
費用弁償
必要性を唱える。
地域でのつながりが大切。短時間、手軽に参加できる環境が必要。年配の人が仕切っているのでは厳しいと思います。地域は私たち守という気持ちが大切。
もっと活動を知ってもらうことだと思う。
「参加している人＝暇な人」という印象がないように、例えば往復の通勤中も自主防犯出来るような車のステッカーやストラップ等を配り、地域の多くの人々が自主防犯活動に取り組む印象を与えれば自然に参加者も増えると思う。
特にこの世代は時間もお金もないので、無理だと思う。 ボランティアでなく、有料奉仕にすべきである。
気軽に参加できること。地域の人と仲良くなれるとこ。
若い人には参加は不可能。ボランティアではなく仕事としてお金を払うようにすれば良い
学業の単位習得や、会社入社の際の優遇
20～40代は、勤め人が多いと思うため、見回りなどの時間帯や曜日によっては参加が難しいと思われる。曜日限定、時間限定ならば、多少は参加しやすくなるかも知れない。



## 意見

1日でも参加できる、数時間でも参加できるといった、日程時間に制限のないかたち。  
急な欠席に対応できるようなサポート。

過度な負担にならるように、分担すること。  
そのようになっていることを周知すること。

青年団や商工会などに依頼する

見返りがないと難しいのではないかと思う。

町内会の活動を通じての参加をよびかける。

私個人としては仕事の関係で困難です。  
会社を早退したり休んだりには出来ませんので解決策が見当たりません。

PTA等で輪番制にする。

昼間は留守にしていることが多いので、それ以外の時間や、通勤・通学・移動しながら出来る  
ことがあるといいと思う。

報酬ではなく、交通費や食費としてのペイがあれば、参加者が増えると思います。

無職の方(生活保護受給者やニート等)の参加呼びかけ。(捉え方によっては誤解が生じま  
すが、参加することで社会に必要とされていることを感じてもらえると思います。)

私も参加したいと考えておりますが、できない理由は予定が合わないということです。  
私の地域では、毎月第一金曜日の夜8:00集合ですが、なかなか忙しい世代には時間が作れな  
い状況です。まず、土日等の休日に設定すると効果があるのではないかと考えます。

あくまでも任意での参加スタイルで無理なく行動できる活動であること

若い世代ほど無償での活動が難しいのではないのでしょうか。小学生と中学生の子供がいますが  
PTAからの協力要請も多く負担に感じています。防犯活動は本当に必要な事ではありますが自分  
の子をほったらかしにするのでは本末転倒でもあります。  
共働きの当たり前になっていく中で皆さんそれぞれの立場でできることを考えていかなければい  
けないなと思います。

## 意見

受け入れる側の体制が重要なように思います。  
ご近所付き合いになるので関係性が悪くなるリスクは避けたいと考えます。  
極端な例ですが、セクハラやパワハラなどのハラスメントがあるのではないかと考える方は少なくないと思います。

懇親会をやりながら関係性を築きつつ、というのが理想かと思いますが、そこまでやると運営側が大変で持続可能性が。。。という問題もあるように思います。

それぞれで、出来る範囲内でやることをやってみるということでしょうか。

費用(労力)対効果の明示。

やはり、子供を一人おいて、防犯、というのは参加を難しくしています。その時間、子供は子供で楽しく過ごせる工夫があったら(逆に長時間のパトロールが難しい高齢の方と遊んだり、宿題をやったりして待つ場所を作る)いいな、と思います。

20~40代は仕事や子育てに一番忙しい世代なので集まりにくいのは仕方ないと思います。負担の小さな参加しやすい環境から始める対策などが必要だと思います

お祭りのようなイベント感

多少の手当(お金)を払う

「自主防犯活動」をもっと親しみやすいフレーズにする。お祭りなどのイベントのタイミングで参加を促す。

活動内容を明確にする。  
次世代を育てている親達が地域を守る意識を持てるよう、学校もからんでPRすると思う

ネットでの募集の強化。

若い世代の前の世代(中学・高校)への積極的な意識づけ。

少し位の手当て支給

謝礼金を払う

ボランティア活動ではなく、地域貢献手当的な報酬を出す。

仕事や生活に負担のない工夫が大前提

自主に頼らず、組織化して、休みか気軽にとれる環境や、ある程度の報酬を用意すると思います。

学校から(地域へ)のお願いが効果的だと思う。

## 意見

参加ごとに景品や、ポイント制度、短時間の活動など

正直難しいと思う。警察がパトロールするか、業者に依頼する、防犯カメラをつけるなどがよいと思う。

地域に働く場所が少ないため、遠くで働いている人が多く、活動に参加することが難しいと思うので、近くで働ける環境を作れば効果的だと思います。

中心になって活動している高齢者の方たちに受け入れ態勢があること。

活動している方から近所の方・職場の方などに直接呼びかけをする。

## 推進すべき

若い世代は上から押さえつけられたり指図されるのを嫌うと思うので、風通しを良くして臨機応変に若者に魅力ある環境が必要と思う。

ご年配の方々が若い世代に、上から目線でなく、同じ高さの目線で歩み寄ること

仕事や学校での理解がないとなかなか難しい気がします。

## 回覧板で募集

必要性を強く感じてもらうこと。自分には関係ないという意識を変えること。いくら忙しくても1年に1時間ぐらいの時間は取れるはずなので、参加したいと思う何かが必要だと思う。

逆から言えば、毎週参加しないといけないとか、しばらく行かないとあいつはさぼっているとか、義務化・強制化されるのは、仕事を抱えていると無理だと思います。それとムラ社会的な組織であれば無理だと思います。

定職をもっていると参加は厳しい。  
高齢化は避けられないと思う。

なかなかボランティアでは難しいかと。  
市などの公共ジムやお風呂の割引利用などがあれば・・・  
少しは違うかと。

市民税の低減。  
金で釣るのが一番。

2つあると思います。

1. 活動が出来るときに出席してもらう。この年代は家事や育児、仕事と幾つもの役割を担っている人達だから、無理のない出席スケジュールを組む事がポイントだと思います。
2. 出席したら、何かポイントを出して(地元で使える商品券等)、「おとく感」を与える。

## 意見

子育てや若い世代の方は、自身の生活も忙しい世代なので、活動のために外に出る時間はなかなか取れないと思います。  
子供の塾や習い事の送迎時や買い物するときなどの外出時に気軽に参加できる活動や、自宅に居ながら出来る活動などがあれば、参加者が増えるのではないのでしょうか？  
また、各学校を通じての参加依頼をお願いするなど。

若いリーダーを立てる。(それも難しいかと思いますが)  
私の住んでいる地域では、お年寄りが活動していて、その輪に入っても馴染めないイメージがある。

対象者に対する広報活動と教育。

参加したいという気持ちがあっても、平日全日仕事を持っていると、なかなか参加できない。休日は、自分自身の体を休めたい。  
仕事を引退するような年齢になって、時間に余裕がもてるようになってからの参加になるのかな…と、漠然と感じている。

参加の時間のばを大きくする

活動に大して適正な対価を払う。

そういった活動がされている事は何となく見た事はあるが、どうやって参加するのか？どこに問い合わせるのか？具体的な活動内容や会合、集会的なものがあり議論されているのか？全く分からない。興味がある人はだけが調べてわかるのではなく、色々な媒体を使って活動告知や思想啓蒙をしていく事が必要かと思う。ただ、強制性がでてしまうとやらされてる感が出てしまい、良くないと思うので、あくまでも任意での参加でありながら、重要性を広めていく事が大切。

## 働き方改革

若い世代は家のこと、会社のことで忙しくて難しいかと思います。ただ地域のいろいろなイベントの参加などを通じて呼びかけるぐらいでしょうか。やっているのを知らせることだけでも印象は違うと思います

ボランティアに期待しすぎず、必要であれば謝礼金を支払う。

自主という言葉が、今の若い方には受け入れられないのでは。ある程度の強制力または金銭面での援助が必要と思われる。

## SNSでの呼びかけ

小中学校生徒のお父さんに持ち回りで休日夕方などに参加してもらう。できる日時を出してもらい必ず1年に1回以上参加してもらう。地域に顔見知りがあれば参加回数が増えていくと思う。

## 意見

各地域の自治体は高齢者が支配しており、若い世代がいつらい状況になっています。自治体に頼っている限り、若者の参加増は見込めないと思います。

活動できる機会を増やす

子供を参加させたらどうでしょうか。

企業との連携(仕事が多忙だと参加できない)

地元商店街や飲食店との共同

私も含め仕事や子育てで多忙な方が多いので参加は難しいと思います。  
学校のPTAで防犯活動を行っているのですがこういう形で当番制でやっていくしかないのではと思います。

現役世代は子育て中であり、積極的な参加は難しいと思います。  
私も自治会の班長で、参加しないといけない立場でしたが、子供が受験で塾の送りとかぶってしまっただけで一度も参加できませんでした。

市町村の安全課に興味を持つ。

いつどこでどんな犯罪など危険なことがあったかを、詳細に周知させる。不安を煽るなど批判もあるかもしれないが、危険を実感すればやれることをやろうと親世代なら思うはず。

高齢化で人材不足内部から意味があるのかという言葉が出ている以上答えは出ているということでは？共働き家庭に参加を求めても無理だということです。市から各自治会の電柱に防犯カメラを設置するほうが現実的だと思います。今の日本に自治会もPTAも自主防犯も合わなくなっているということ。このチャンスに団体を解散して防犯カメラに移行して自主的に子供の見回りなどできる人は有償で募るべきでは？

町会での参加を募る。

その年代は厳しいと思う 参加したい気持ちはあっても時間な余裕がない その分、警察のパトロールを強化すればいい

活動時間や活動内容を仕事をしている人に合わせる。定期的な参加だけでなく、月1回など気軽に参加できるようにする。責任の軽減化。

学校との共同

行政の実務的・金銭的サポートがある上で、活動主体は自治会とすると、経済的持続性、活動内容の質に対する安心感がある。

若い人たちに活動内容を知ってもらう必要があると思います。  
参加しやすい環境も必要ですね。

## 意見

学校での授業の一環にする。

まずは活動のアピール。どのような機会でもどのようなことをやっているかとその参加方法をしっかり紹介できれば参加する方が増えると思う。

SNSなどで呼びかける。

自主防犯活動団体が行動することによって犯罪が減少した実績の周知。小学校PTAからの保護者への依頼。

個人でも活動できるよう活動があると良いと思います。

時間の自由が利く工夫。

活動者が良かれ思って取った行動が逆に事態を悪化させた場合の法的責任緩和や、カメラその他の先進機器を利用した体力的負担の緩和、保険などでの金銭的心配緩和など、活動者をフォローする体制を整えて安心して参加できるようにする。

現時点で活動されている20代～40代の方に、市報等の広報誌上で活動の詳細紹介、参加への呼びかけを行ってもらう

若い世代は自主防犯活動団体に参加していなくても、PTAなどで小学校の登下校や校外活動時に協力しているかたは多い。こどものためなら時間を作るが、さらに自治会から声をかけられても難しい。

高齢化で定年を迎えている方は増え、元気な70代も多い。無理のない範囲で地域のパトロールなどをお願いできればと思います。

自分たちの地域は自分たちで守ろうーという宣伝。

若い世代は家庭や仕事を優先せざるを得ないので、地域コミュニティへの参加要請はなかなか難しいと考えられるので、やむを得ず、自治会等の役員として輪番制による参加を促す。

高齢者は固まっていて若い人を受け入れないイメージがある。自由に気軽に参加できる雰囲気が必要。敷居をまず下げてみては。

自治会を通しての情報提供。  
参加しやすい時間帯、日程など個々の条件に対応出来るようにする。  
世代間交流。

自分自身、必ずしも積極的に参加している訳ではなく、自治会の活動の一環として関わっているが、活動内容をSNSで発信するなど、親しみを感じられるようにする事が重要だと思う。

子供会との連携

もっとわかりやすく勧誘をするべきだと思う。

<b>意見</b>
冊子をポストに投函。興味のある人を募る
自治体の問題ではなく国境や企業の協力や努力が必要
固定の時間帯ではなく、活動時間内の一部時間とか、まずは参加のためのハードルを下げる
子連れでも参加できるような活動だと若いお母さんも参加しやすいと思う。 (下校時間に合わせて子供を迎えに行きがてら活動してもらうとか)
若い世代に年配者が寄り添い耳を傾ける態度であること。若い働き盛りの世代に参加しやすい条件であること。
ベストなどお預かりしていますが、平日は勤務があるので全く活動できていません。若い世代が地域活動に参加することはとても重要ですが、現実的には難しいので 例えば休日に行われる行事に対する見守り活動への参加など人に合わせた案内をするとよいと思います。無理な状況なのに依頼をすると距離を開くことにしかならないと思います
地域自治組織の活性化
いつでも気軽にできることがいいと思う
駅や役所などでの周知
この世代はまだまだ仕事と子育てが大変なので今すぐとは無理だと思いますが、声かけはして活動は知ってもらうのは必要だと思います。
地元の小中学校(PTA)で定期的に夜のパトロールをしているが、殆どが女性(母親)で男性の方が居てくれたら、より効果的だと思う。 公共の施設を利用する民間団体に防犯活動を依頼し、その特典として施設の利用を有利にするような制度があってもいいと思う。
若い世代の人たちにも、まずは手伝ってもらうことが大切だと思う。
活動の自由度を高めて、いつでもどこでもできる人ができる範囲で参加できるようにする
気軽に参加できる工夫、参加ノルマを作らない等
参加できる時間帯や曜日の調整(年輩者は登下校の見守り、若い世代には夜間パトロールなど) ボランティアであっても、多少なりの報酬があればなお良いのではないのでしょうか。

## 意見

PTAと同じで、ある程度義務化しないとなかなか自主的には集まらないと思う。  
実際、ちょうど今日もPTAの当番の防犯パトロールをしてきた。  
若い人は忙しいので、頻度は期待せず、年1回でもいいから参加すれば充分。

飲み物を配る。

企業の長時間労働の改善。  
個人的には帰宅がほぼ毎日22時ごろであり、こういった活動は不可能。

監視カメラを多く取り付け、人手不足をカバー。半強制的に参加してもらうとか。

先ずは宣伝が必要。

参加に対する動機付けが必要、表彰制度や、ポイント付与等

比較的時間がとれる自営業の方に参加いただけるよう、商工会議所やJCIに依頼したらどうかと思う。

県政業務全般に言えることですが、「啓蒙」努力が不足していると感じる。

子供達の通学でお世話になっている方も多いと思いますので、学校等々での行事を使っての紹介から始めてみる。また、体験参加や一時的な協力ができる方法により、身近である点をアピールする事も検討するのは如何でしょうか？

若い世代は、時間的な拘束を嫌がる部分もあると思います。その点をクリアできれば。また、自主防犯活動は、現役世代をリタイヤした方が行うと言う印象が強すぎると感じている。

自主防犯活動に参加すると、ポイントや防犯グッズがもらえるといったメリットがあること

若い世代は生活していくことで手一杯だと思う。あえて考えるなら学校PTA等を通じてお願いする方法もあると思うが、時代が変わっているので難しそう。

大学との連携

負担にならないこと

やはりSNSを利用し、啓発活動を展開すれば興味が沸くのではと思う。

若い世代の参加は難しいと思う。

働き方が多様化しており、現実的にはなかなか難しいと思います。



## 意見

若い人が参加しやすいような環境、雰囲気をまずは作っていくことだと思う。学校の保護者などにも働きかけるような状況にしたり、時間帯をかなり限定して、忙しい現代人にも対応しやすいような状況を作っていくこと。やってみたいと思えるようなイメージ作りも必要かなと思います。現時点で知らなかったの、あまり知られてない気がします。

根気よく説明して参加しやすい条件を模索する

交流会などの交流。どうしても閉鎖的な団体におもえてしまうから。

地区の学校(小中高)の校長等の管理職が積極的に自治会活動参加し、近隣住民に協力を要請する。

そもそもが自主防犯活動が必要なのではなく、警察や行政が街の治安を良くすべきではないのか。

やっているぞ！アピールの活動だけでは嫌気がする。

より入りやすい環境を整えることがああとと思う

気軽に参加できる環境および雰囲気作り。

子育て世代は学校などで防犯パトロールがある地域もあると思うので、それを引き続きやっていく形がいいと思います。

ハッキリとした講習や資格保持者の活動と位置づける。お節介にうつる。

参加者の手助けをする。介護や子育て

謝礼金。  
それもある程度高額の謝礼を用意すること。

自治会役員になったら参加を強くお願いする。

個々の参加者に過度な負担とならないような工夫が必要と感じます。日常の防犯活動の他に、組織の役員等、世話役的なものを活動の初期から期待され、要請されると参加に尻込みをしてしまうきっかけとなるのではないかと考えられます。

若い世代も参加しやすい工夫

子供のころからの教育、意識付け

## 意見

報酬を与える。(金券など)

学校のPTAでの呼びかけが必要だと思う。

Twitterなどで身近な事件や事故を呟ける環境作り、警察への通報システムや法整備  
事件や事故を見かけたら、ツイートする。個人情報へも配慮

若い人にやってもらいたい

自治会そのものに参加していない家庭も多い。自治会に参加したくなるようなしくみづくりが必要。  
40代で参加したら、若い方が参加されるのは珍しいといわれた。

友達同士で参加する。

スタイリッシュないでたちや 活動自体が楽しくなるしかけ。

広報や活動内容の告知。

地域の学校行事などでさまざまな世代交流を持ち、自分の子供がお世話になっている自覚を若い親世代が持つべき。  
母親だけでなく、父親参加が必要。

広い年齢層で、参加できる行事を増やして、まず、皆んながなかよくなる。犯罪、犯罪

働き世代には難しいと思う

仕事が休みの時など空き時間に参加できるような工夫。

自営業者の方や定年後の方が比較的多いと思いますが、サラリーマン等、活動可能な時間帯や曜日などに制限のある者も参加できるよう曜日指定、時間帯指定で活動できると良い。

強要しない  
その年代又は、ご家庭のタイミングを待つ。

ホームページやSNSを効果的に使う。

青年会や商工会とのタイアップ、大学生のボランティア、中学生以下の子供をもつ父親などに参加を募るのがもっとも効果的かと思います。

<b>意見</b>
高齢者の活用
参加するメリットが必要。 やはり20～40代は子育てや仕事が多忙な時期なので子どもたちを通じて気軽に参加出来る仕組み等があると良い。
その地域の卒業生などに定期的に集まってもらうように投げかけてもらう。理事や班長をされている方のお子さんやお孫さん辺りにお願いしてはどうでしょうか？あと、参加しやすいように、曜日と時間を固定する。それは若い方に決めてもらい、決まったことや実行したことは連絡はもらうようにするとか。
自主的に参加したくなるようにする
何かしらのインセンティブ付与 飲食クーポンなど
真の働き方改革
若い世代には時間の余裕がなく参加は難しいことと思う、体が不自由でも、助け合っで見守りに参加するなど、高齢者の社会参加率を上げる工夫の方がよいのではないかと思う。社会に目を向けている人が多くいるという姿勢を年配者の行動から示すことが、若い世代に参加意識を持たせ、おいおい参加していくという道筋がつけられると思う。
持ち回りで強制的に参加させれば良いと思う
働き方改革で残業を無くし基本給をアップさせる。
時間や期間などを明確にして、それ以外の付き合いを強制しない(そのつながりを利用して、こっちも頼めない？的なことはしない)
学校が主体となってイベント感覚で家族で参加できるようにしてはどうか。
市町村主導、舵取り。特に家庭を持つる家族への有効性のアピール
幅広い世代を取り込むためには、その世代ごとに取り組みや工夫を変える必要があると思う。 例えば、若い世代の方は、子どもが小さかったりするので、一緒に参加できるような、また参加したくなるような内容にする、一定回数へ参加賞など用意するなど、まず参加を促し、そのうえで活動の大切さなどを知ってもらうことが必要だと思う。
仕事や子育て世代には厳しい。できたら時間に余裕ある高齢者に是非お願いしたい。

## 意見

参加しやすい地域の行事(お祭り等)の際に、若い世代の方へ声をかけ少しでもせ湯名を聞いてもらう

子供会等で募集し、方法や時間等について話し合う。

休日の活動に参加して貰う  
子連れで、参加できるように工夫する。

活動内容をもっとアピールする

平日は無理だと思います。  
地域の企業等、個人でないはない組織に頼ることが必要ではないでしょうか？

もう少し、自治体が、参加してほしい。

参加できない人は費用負担するなど、参加の仕方を多様化することが必要。

しぼられないで自由に参加できる

## 経済成長

問い合わせできる窓口を増やす。特に若い世代の人はSNSなどを使いこなしているなので、そこから情報収集できるような環境を作っていけば、反応があるのではないかと思います。

ボランティアみたいな感じの活動にし、役場などで気軽に申しこみできれば参加は激増する。  
様々な時間でのパトロールが可能になる。  
年寄りのコミュニティのみでは問題

ある程度有償化すればよいと思う。なんでも無償でボランティアにやらしてもらおうという時代ではない。

ネットでの申し込みや何かしらの報酬。

普段からの人と人との繋がりが必要であると思う。日常の挨拶から良き日本文化を復活させたい

意識改革。。啓蒙活動。。難しいことは理解してますし、継続して知らしめることが必要かと思う。

少年団で当番を作るとか、各登校班で1年に1回なら子育て、共働き世代にも負担が少ないのでは。

自治会等の既存の枠組みだけでなく、ネットの積極的な活用が必要だと思います。

## 意見

自主活動はとても大事だと思いますが、生活保護者に依頼することはできないのでしょうか。私は常々生活保護世帯に対して非常に問題を考えています。労働の対価としての賃金です。現金での支給は一部の方はパチンコ等に使用しているとも耳に致します。どうしても難しいという方は致し方なくとも、元気に料金を朝早く並んで取りに来られる方々がいらっしゃるのであれば、ボランティア活動をしていただきその対価として渡した方がいいのではないだろうか。

今や学校に通わせる子供を持つ親はほとんどが共稼ぎ。業務が膨れてしまったPTA活動にも見回りや立哨といった家族でなくてもできることがあります。ポイント制にしても良いので、何も活動をさせず料金(税金)を渡すというのはいかがなものかと思っています。税金の一部を渡すのであれば、町の役に立っていただくことも必要ではないだろうか。

## 何らかの金銭的インセンティブ

学生は授業の一環で関わる・社会人は勤務の一環で関わる・地域の大人は子どもの学校のPTAや学校応援団などで関わる・・・など、何らかの所属している団体絡みで始めると良いと思います。

## SNSなどでの広報活動

日常が、防犯活動であいさつからはじめましょうのように負担に感じないところからの意識付け。

意味のある活動だと思うが、参加が強制的になると難しいと思う  
できる人ができる時に気軽に参加できるなら、参加者は増えると思う

具体的なメリット・デメリットをしっかりと明示し、同じ自治会内で何かメリットがあると、参加のきっかけや参加意欲に結びつくかも知れません

気軽に 強制ではなく 仕事や家庭の事情で急に休める 楽しい

報酬を。

参加すると、良いことがあるとか楽しいことがあるという事をアピールできれば、参加者も増えてくれると思う。

若い世代は家にいる時間が少ないので、防犯活動は難しいと思います。  
社会で考えていかなければならない問題の1つだと思います。

地域のコミュニケーションを図る場が必要。

## 活動を知ってもらうための広報活動

やれる人が頑張ってください。

この年代は自己中心的な人が多い。保護者で輪番制にしては？

<b>意見</b>
手当の支給
様々な手段を用いて地域住民とコミュニケーションをとり、活動をアピールし、自主防犯活動の必要性を理解してもらう事が必要と考えます。
教育現場、地域企業へのアピール
何らかのインセンティブ
年配の方々こそ難しいことを言わないで若者を受け入れようとする姿勢。 1ヶ月に1回でもよいから参加してくれば良いよという縛らない姿勢。 女性も積極的に参加できる体制作り。
若い世代は仕事が有り難いのが現実 参加するのでは無く普段の通勤時や移動中に腕章をすとか興味のある家庭の車両に防犯パトロールのマグネットステッカー等を張り等 数を増やして見える防犯活動にする
報酬支払。
実際の活動内容を詳細に公開する
時間を取ること自体が難しい。有償ボランティアにするなど何らかの報酬があれば増えるような気もする。
良いリーダーを確保する
新旧の交流が必至
お年寄りだけでグループを作らない。閉鎖的にならないようにする。
ごみ捨てのルールを守る、挨拶をするなどがコミュ障で出来ない中で、自分のことだけを考える背景ですから、この先はAI の力を利用した方が良いと思います。
若い世代は、時間がないので、今までのやり方では参加出来ない。 アイデアは無いが、イベント等で意識付けをして自分から動くように促したらどうか。
その地域にある企業や商店の協力。高校や大学のボランティア部への依頼。県や市町村で、努力義務の規則をつくる。また、防犯カメラの設置を増やすことによって、そういった活動がしやすくなるのではないのでしょうか。
ポイント制を取り入れたり近くの短大、大学等を巻き込むのが良いのでは。

## 意見

参加へのハードルを下げるための意見交換。

若い世代はやはり仕事や子育てがあるので無理だと思う。どうしてもと言うのならば土日祝日等は若い人にやってもらえばよいと思う。

強要せず出られる時に出来る方が、参加できる雰囲気。

ボランティア活動なので見返りが無いのが普通だが多少のお得なことを提案して参加してもらうときっかけをつくる

参加できる時間パターンがいろいろあればと思います。  
女性でも参加できる機会があれば広報して欲しいです。

自治会に頼らないシステムが必要。

PTA、青少年ボランティア団体とのコラボレーション

町内会長の当番のように、みんな順番に参加するようにする。

都合のいい時だけ参加してもらう

ウチはウチという最近の近所付き合いではみんなで防犯は出来ないと思います。何か有っても声をかけづらいですし…。両親が伊奈町居住で防犯パトロールしていますが、高齢なので逆に心配です！ どうしたら良いのでしょうか…。

休日のみや、自分の都合のいい時間で気軽に参加できる事

アピールすること

普通に募っても、忙しいの一言で片付けられてしまうので、まずは、活動の必要性を理解してもらうようにしなくてはならないと思います。

報酬を与える。

コミュニケーションが大切だと思うので予算の確保  
女子の親のほうが関心が強いと思いますので地域の問題点などを隠さずに公開するべきだと思います

あくまでも「自主」なので、消滅してもしょうがない。

## 意見

朝夕の混雑時に自宅近くの幹線道路に子供たちの見守りのため交通事故軽減のため立つことから始めたら良いと考えます。出来ることを見つけてその人たちにご苦労様と挨拶をすることから始めれば何かが始まるような気がします。

バイト代 あと、安全かどうか。丸腰じゃ戦えない。

住みやすい街を築く等の理解、共有をあらゆるチャンネルを使い働きかける。  
防災訓練、連日の見守り活動を通じて、町民に必要性を感じるよよう働きかける。

啓蒙教育が不足している。若い世代に受け入れられる提案が必要。

まず活動の実態を多くの人に知ってもらうのが第一と思います。  
何をしているのかもよくわからないのが実状だと思います。特別な人がやっている遠い存在の団体で、閉鎖的なイメージがあります。公民館で説明会を開くとか、お試して活動に参加できるとか、参加者大募集としてチラシを作ったり興味を持ってもらうことが一番ではないでしょうか。

難しいが、お祭りや餅つき大会のイベントに合わせて啓発用チラシを配付することなどが考えられる。

公務員、特に警察官と交流する機会を作り親近感をもたせる。  
一般生活する上で、安心とゆとりが生まれる。

シルバーさん達の集団には入っていきづらい

参加する意義を感じるような働きかけを工夫したり、子供と一緒に参加できる方法を考えると子育て世代も興味がわくかもしれない

若い世代への子育て支援をして、互いに助け合う関係を作る。

仕事を持っている身としては、まず時間が取れない問題大です。7時に家を出て21時過ぎに帰宅する日々を送っていると難しいかと思えます。

何か参加者へのメリットを考えないとなかなか人は増えないと思う。

堅苦しくしない。

働く親の為に、夜間(午後6時以降や、早朝などの特別な時間帯の区分があるといい)

## 啓蒙活動

地域の子供はやはり親御さん達にも参加して頂く必要があるのでPTA・自自会・NGOなどの連携が必要と考えます。もっと積極的に役所から薦めていくといいのではと思います。



意見
町会でも同じ役員が何年も行い 新しい住民を受け入れない環境がある。もっと誰もが気軽に参加できる事ができたら、私も是非参加したい。
街頭キャンペーン
難しい
まずは多くの人に知ってもらうこと。そしてその呼びかけを広報などを通じて行う
無理強いしないこと。閉鎖的だったり、保守的すぎたり、義務的におしつけがましくて、自由がきかないこと。特に自治会主体だと、高齢者が取り仕切ることが多く、若い世代にはなじみにくいことが多い。
防犯だけだとなかなか集まらないと思うので若者に興味が湧く活動を内容に加えた方が良い
大勢の人に呼び掛ける
無理に増やすことを考えなくてもよいのではないか。
500円ぐらいのお弁当代を提供
個人の自覚と活動の有意義さがあれば、若者も関心を示すと思います。
意識改革が必要だ
減っていくならそれはそれで仕方がないと思う。若い世代は忙しく、また技術の進歩で、セキュリティーの機械がどんどん開発されているので、そちらに頼ればよい。ひとりひとりの意識の向上にまかせるしかない。
消防団と同じ地位
知ってもらうこと
日頃の生活に余裕がない人が多いので、生活面の補助をする

## 意見

若い人の参加はカッコよさやイケてる感じを出さないと。ともかく大人が前面に出るとダサイデザインが多くてやる気が出ないと思う。硬い漢字が多いただけで出ないからSNSだけでなくアプリやLINEも使うべき

20～40代の参加は無理だと思います。ただ、無関心ではいてほしくないなので、こういう活動をしていますよということを目につくように、耳に入るようにアピールしておけば、50～60代になった時に参加してくれると思います。

市民総スマホカメラマン時代！  
SNSで市や県 警察 消防 と繋がっている地域も出始めている。  
スマホに通達、市民から情報収集、  
繋がっている。誰かが悪い事しても誰かが見ている。  
防犯カメラも有効ですが、それに市民カメラが繋がればなお強い。  
市民と繋がっている市 県 の日本一を狙ってください。  
防犯 防災 に使えるツールです  
C( .@ ▽ @..)つこんな感じ大切です！  
声をかけられない弱者も通報なら出来る可能性がある。  
威圧よりも社会風潮！

## ネット活用

活動のパターンを複数つくり、参加しやすくする。

年齢や地位に関係なく平等に活動できること。

実際若い方々へ興味を持たせる事は出来てもあまり必要性を感じません。  
むしろ50代以上になるとより地域に密着を求めたり、時間的余裕が出来て参加の機会があればしたいと思う方はいるはずですのでそちらに対するアプローチの方が効果が期待出来ると思います。

活動内容や参加者の声などを、県・市の広報媒体にて広く周知。  
まず若い世代の核となる者を見つけ、全てを任せる。高齢者は口出しせず、暖かく見守る。

## 社会の勤務体制の改善が必要

活動の存在を周知することが初めの一歩だと思う。  
その上で、活動の効果と、活動に参加することのメリットを地道に知らせていくしかないのでは。

学校のPTAから先頭にいた方がいいと思います。

- \* 自治会に加入して下さる方を増やすこと。
- \* 小中学校で、地域の防犯意識を高める工夫、地域愛を育てていくこと。

幼稚園児、小学校低学年児童の母親を取り込み、自然に掲題していく体制を構築していく。

## 意見

川越市の場合、東京など遠隔地勤務者が多いことや共稼ぎも多いことから、若い世代を増やすことは、現実的ではない。高齢化は、決して、ネガティブな選択肢ではない。時代の趨勢である。

働いている若い世代には無理。

近所付き合いの復活

若い世代にきちんと任せること。あまり出しゃばらない。

若い世代(20代~40代)の方々は、子育てや仕事を抱えていて、参加自体、なかなか難しいと思います。まずは、時間に余裕のある大学生や、子どもから手が離れた年代(50代)あたりの参加を促してみる方がいいのでは？  
特に、大学生などは、ボランティアの経験が就職などにも結びつくので、双方にメリットがあっていいのではと思います。

活動内容(パトロール、子供の見守りなど)を明確にし、範囲を絞り込んで少人数でも効果を上げる方法を考えたほうが良いのではないのでしょうか。

マンションやアパートに住んでいる一人暮らしの方には、大家さんや管理組合に呼びかけるのが良いと思います。

自治会活動の一環として活動、若い班長さんをお願いします。

平日と休日など可能な日の調整ができれば良い

スポット参加(常時ではない)の活用

自主防犯活動がどんなものかを休日の街頭や駅周辺など人が集まりやすい場所でPRしてもらいたいです。

もっと宣伝する

子育てしやすい環境と、参加できる時間を確保する工夫や仕組み作り。

地域交流の促進

地域のコミュニケーションを活性化する

隣接する自治体との協力で協働日を決めて防犯活動することで参加人数も増えるのではと考える。

## 意見

若い世代に参加してもらおうと思うのは、働き世代なので難しいと思います。元気なご年配の方々をお願いして、子ども達も周りの方々の有り難みをわかるように。親たち世代が、常にその気持ちを持つことが、子どもにも影響を与えたいと思います。

### 町内自治会の持ち回り活動

地域で当番制にする。

日頃から地域のつながりを密にしておく。大型のマンションが出来た時は管理組合がスムーズに地域の自治会に入っていけるようにする。よそ者意識を持たないような取り組みが必要。

大人世代からの押し付けでなく、若者たちが自分たちでどうしたいかを話し合う機会を作り、防犯にはこういう活動もあるよとアドバイスする程度にして、若い世代が自主的に防犯活動をしたと思うようにしてみてもいいと思います。地域ボランティアを点数制度にして、点数に応じた報酬をもらえるようにしたり、楽しめる活動にする工夫があればと思います。

どんな活動により、どれだけ成果が出ているのか？等をSNSを利用してPRする。

呼びかけをする、必要な事をアピールする。  
少額でもいい、報酬があると参加者が増える。関心が出る

参加のメリットをアピールする。

### 若い世代に知ってもらうような広報体制づくり・充実

若い世代は子育てや仕事で活動時間が限られてしまうのでできる時間に気軽に参加できる形がとれたらと思います

### 自治会活動からの分離

自主防犯活動団体のホームページやSNSなどで、情報を広めることが必要だと思います。

会合における不快感をなくすことや、団体を仲間意識に帰ること

自分たちの地域は自分たちで守る、ということでは必ずしもなくてよく、自分たちのできることを自分たちで行う程度がよい。  
若い世代は、日中に自宅地域におらず、むしろ自宅地域の関係が薄いことから、現役リタイアした人が中心になることはやむを得ない。

自治会を通しての声掛けを地道にしていくほかないと思う。  
若い世代が、外に働きに行く人が多い現状ではなかなか参加できる人はいないと思う。子ども対象の防犯活動はPTAに団体として参加してもらおうことを考えることもできると思うが、その際、子供同伴での活動を認めるようにしないと、参加しにくいと思う。核家族が多い今、子供だけで留守番させるのは心配事が増える。

## 意見

地元の幼稚園や保育園小学校からのお知らせ等で募る。

高齢者は地域愛が強いが、どうしてもよそ者に冷たい。マンション住民に対しても門戸を開くよう、管理組合や管理会社に働きかける努力が必要。(浦和区の場合)

学校行事などの若い世代が集まる場所でのPR活動

広報活動をする事で、地域の人に若い世代にアピールする

自主と謳っているのであれば特に参加は自由でなければならないのでは？

報酬があればいいと思います。

子供のために必要であることを説明する。

(1)地域住民に対して、どのような活動を行っているのかを具体的に示してPRすること。  
(2)地域住民に、参加のきっかけを多く提示すること。

実際にどのような活動をしているのかわからない方がほとんどだと思うので、まずは活動の内容を知ってもらうことが第一だと思います。

働き、介護しろ、子供を産め・・・誰が参加できる世の中なのか

参加方法について、具体的な広報と掲示が必要。

何か、気軽さや手頃感を出せないものか……。

時間や曜日の弾力的な対応

長老、地元の親分みたいな人たちが多く若い人だけでなく、多くの一般市民が輪に入りにくいのではないのでしょうか。いろいろな人たちが参加しやすい、具体的にはすぐには出てきませんが、試行錯誤しながら取り組むことが大事ではないのでしょうか。特に東京などに通勤している者にとっては平日の参加は難しい方も多いため、土日祝祭日、それも夜だけでなく昼間に行うなどのケースもあるとよいと思いますがいかがでしょうか。

参加者に時給を出す。

受験や就職に有利に

## 意見

ノーアイデアです。なぜ、特に若い世代(20代~40代)に参加してもらいたいのかの目的・主旨がわかりません。

一方では、生涯学習とか高齢者の活躍の場という観点から、その年代よりは60歳~65歳、もしくは65歳以降の時間の自由な活用な方が参加してもらうための工夫が良いと思う。私の周りの方々は、市からの要請があれば協力してくれる方は沢山いると考えます。

無理にお願いしても難しいと思います。関心のある人にアピールする広告活動などが良いと思います。

先ほどの広報等で、広くつのったほうがいい。それに活動が制限されている人に、気軽に参加できるように、気を使ってほしい。

ノルマ(たとえば年に数回とか)を果たしている人には、市や県で協賛しているコンサート、演劇などのチケットを無料配布する。あるいは県の名産などをプレゼントする。

地域の特性を考える。

私の町(草加市金明町)では、古くからの地主だけで町内会を運営している。しかもお年寄りだけで。

自治体が是正していかなければ、このような町はたくさんある。

開かれた町の運営をしなければ自主防犯活動ができない。

①若い年齢層の人口流入(定住)を図ること、②若い人に住んでいる地域を「自分の地元」と思ってもらえる意識の醸成。

青少年育成会など町内の組織と連携してベストや帽子の配布をする事によって参加しやすくする工夫が必要と思う。

小学校や中学校のPTA活動の役員のなかに入れて順番に回ってもらうなどはいかがでしょうか。、

電気工事組合、管工事組合、工場団地や卸団地の事務局又は青年部あるいは女性部に働きかけること

自由な時間に少人数でも活動ができるシステム作りが必要だと思う。

地元の企業からまずは協力して頂き会社組織での参加があると良いと思います。

子育て世代の人たちはSNSの活用が良いのではないのでしょうか。

SNSでの呼び掛け

自分の生活の安定してないと参加する余裕がないと思う。

自治会等への積極的な加入。謝礼

普段の連携

## 意見

交流会等の開催

回覧板での呼びかけなど 勧誘があっても良いと思う。

気軽に情報交換の出来る場の提供 もっと身近な団体になるような工夫を

- ・活動する時間帯を工夫する。
- ・報酬等の支給
- ・褒賞、叙位叙勲の対象とする。
- ・活動時における万が一の際に備えた保障の充実
- ・教育、研修制度の導入等

参加した結果が見える形(スタンプノート)を用意して自分で確認する。

若い世代で共働き世帯はなかなか参加するのはむずかしいと思うが、小学生の登下校時の見守りは学校のPTAと協力すれば人は集まると思う。

とにかく1回経験してもらおう。

ボランティア活動の一環として、大学などと共同で取り組む

自主防犯活動への参加者を増やしていくために必要なことは、その目的や効果を行政が丁寧にPRしていくことだと思う。

また、若い世代(20代～40代)に活動団体に参加してもらうには、地域の大学や企業との連携が必要だと思う。

効果があるのなら、それをはっきり示すことがまず必要だと思う。

警察の交通安全員がいるがそういう人々ではだめなのだろうか？

女性を含めた参加を促す

企業側がその行為に対しての理解があるかどうか。家族・仕事よりそちらが中心にならないようにできるか。団体ありきで地域の密度が濃すぎて新しい人材が根付かない、育てようという意思があるかどうか難しい問題だと思います。

難しいです。仕事に子育てに大変な時期なので。

小さい頃から、地域での祭りやイベントを通して、地域に対する愛着やお年寄りなどとの関わりを密にすることで、大人は子供を、子供(若い世代)は高齢者をサポートする気持ちが生まれると思う。

## 意見

自治活動の若返りが必要・50代60代のより参加が必要です。70代いじょうは顧問団とした方がいい。

どうしているのかの明示、自治会などでのある程度の強制的な参加。

会社や大学と連携する

子供がいる世代は、学校関係で活動しているので無理ではないかと思う。  
自分の時も育成会関係で忙しかったから。

男性の参加を促すために家族で話し合う。

アンケートなどを配り、曜日や時間、パトロール出来るルートなど、細かく希望をとって、チームで動けるようにする。

僅かでもよいので地域からの謝礼

自由な参加と参加特典。

研修を土日にも開催する、パトロールの日程も柔軟にするなど 参加しやすい工夫はまだまだあると思います  
今の時代にあってないように感じました防犯のボランティアは外のボランティアよりハードルが高いです

若い人が中心となり、高齢者でもお元気な方が脇をかためる。

私は、約30年アパートに住んでいるが、広報でさえ配達されない。危機管理にも東松山市の管理体制には問題を感じる。

啓発活動を市をあげてやってほしい

ボランティアにしても 多少の資金を 出すべき。  
たとえば、飲み会などの 資金をだす。行きたくなくても行かなければならない時、ことわりずらいと思うので。

自治会が中心になって  
知らせて行く事  
関心を持ってもらう事が大事だと思います

自治会、町内会活動の一層の情報開示。地主等地元有力者の権限が強すぎる。

インセンティブ

企業や学校の父兄に呼びかけてもらう



<b>意見</b>
輪番制にする。
社会的認知の高まり
長時間労働をやめさせる
幅広い時間帯、少ない時間でも参加できる環境
事故の防止などのため、自主防犯活動をする住民に対して、自治体・警察・消防などが、数時間程度の活動に必要な研修を行う必要がある。
若い現役世代は平日の活動に無理があるため、休日の1時間程度の参加から呼び掛けて行くことが良いと思う。特に子供が小さな家庭には効果的かな？
時期を定めて懇親会を開催する。
自主防犯活動は意味が無い。と思う
地域の企業市民として、若い従業員の協力を経営者に申し入れる。 各自治会組織、町内会組織などで後継世代の出席を募る。
働いている人はなかなか平日の参加は難しいのでは休日や夜でも参加出来るようなシステムがあればいいかと思います。
学校での教育
スーパーなどに広告を貼る。
若い世代の参加を促すためには、小中学校の親へのPTA、後援会を通しての呼びかけや、SNSを使った呼びかけも有効では。 活動団体の高齢者は、若い世代に活動を任せ、バックアップに回ると、活動しやすくなるのでは。
学校時代からの樹種防災活動の必要性の教育。
下校時刻に合わせて犬の散歩を促す活動がされているが、そのような楽しみながら肩肘張らずに出来る活動を増やしていくこと
それなりの予算計上は必要ですね。
<b>特典</b>
家族ぐるみの仲間づくり

## 意見

地域の人が参加したくなるような 楽しい催しをして その時に参加を呼び掛ける

PTAの呼びかけが必要。

モチベーションとなるのは何らかの特典。  
謝礼金は原資が必要ですからNG。  
将来の行政サービスを便宜を図ってもらえるクーポンでも付与するとか？

積極的な広報活動など

例えば大学校との連携。

SNSなどで必要性の説明と参加募集などをする

活動の内容を広報などで知らせて、募集する。その際に交通規則などの研修を行う。

チーム内の面倒くさい人間関係をなくす。

高齢化の人の活用

知り合いを通して、参加を募っているけどシニアの方が多いですね。子育て世代は、直接子供の安全につながるので、そのことをもっと、PRしたらいいのでは？ パパ隊やママ隊、ジージ隊、バーバ隊、わんこ散歩隊等。時間を割くのではなく、ネームプレートなどを付けて、防犯中をアピールしたら、ママたちの立ち話も有効だと思います。

共助の精神を育むこと。

活動時間の問題

やはり若い世代に依頼するのは無理があるのでは、依頼すると言うよりは、当番制にし他方が良いのでは？ 依頼しても他の事(遊び)が忙しくてやらないと思う。

年代を大まかに分けて、防犯活動を行う。

育成会等で、子供たちの安全を守る趣旨を説明し理解してもらおう。  
現代はお勤めの人も多いようなので、輪番性にしたりして、みんなで協力していくことが大切だと思います。

1. 自主防犯活動の知名度を上げる。
2. 活動にメリットを作る。

## 意見

わたしたちの社会は二極化している。密着か離散かに極端にぶれてしまういまの家族のあり方。同じか同じでないかを判別することからはじまる級友たちの関係。不祥事が起こればすぐに「犯人」を捜しだし、弾劾をはじめると。「報道」という名のイメージの送信に、思考を介さず直情的に反応してしまう視聴者たち……。 「しなり」の技がなくなってきた。社会が強ばってきたそのとき、いちばん必要なものは、窮地に陥っても、伏せ、かわし、いなし、反りかえり、踏みこたえ、うっちゃるというワザがあったが…。

だから、若い世代には地域の自主防犯活動に参加することは、自分たちの「家族のあり方」を見直す機会にもつながる。

班長を中心になって、自治会活動に積極的に参加してもらう。

活動の周知徹底と、時間が空いた時に気軽に参加できるような環境。  
自治会の役員など、決まった人に任せてしまっているような印象があります。

市職員の方にリーダーになってもらい、チラシを各戸に配布する、又市のHPにも積極的に募集、活動の実績を紹介する。  
他市の活動団体との交流会を設け意見交流をし、記録を残す。  
若い世代の方の参加は自営業の方を主なターゲットに先輩のコネを使って募集するのも手段のひとつだと思います。

## PTAとの連携

## コミュニケーションと組織作り

活動として、医療・行政・警察等の団体との密接な連携、自主団体にお任せ（放置状態）では、人材不足・高齢化は解消しないと思う。

自分達の家族や知り合いのためになるのだということを、粘り強く訴える。

## 必要性をアピールする

どうしても、時間に余裕のある世代になってしまうのは仕方ないと思う。  
自分の家族の被害を防止するという、意識があれば参加のきっかけになると思う

## 若い人に情報が伝わる仕組み

参加しやすい状況整備。

防犯の格好が 良くないと思う  
いかにも・・は やりたくないと思う

高齢化は何処も同じかと思えます。時間制約で縛らず、自身の運動と情報交換の場としての活動になれば、参加もしやすくなるかと思えます。  
若い世代は、仕事・家庭との兼ね合いも有りますので、家族で行動出来なければ厳しいと思えます。

意見
月に一回でもいいので参加してもらう
皆さん仕事など時間的な制約があると思いますので毎日参加できなくても、短時間でも可能な範囲でやってみたいと考えている方も多いのではないのでしょうか。 出来る範囲での参加を行うなどの方式で底辺の拡大を図るのがいいのではないのでしょうか。
まず宣伝し広く告知し 募る事からスタートと思います
仕事をしている人がほとんどなので難しいのあろうと思う。
地元意識の徹底。
まず防犯活動が本当に必要なのか？これを考えるべき。 それがなければ、どうなっていたのか？活動しなかった時期とし始めた時期との比較をするべき。 実態を調べてから行動を起こす事が肝要。なんでも、博愛主義になつてはマイナスはあってもプラスはない。
活動のマンネリ化防止が必要です。一部の個人に対して表彰するのは止めて、活動している数名のメンバーを表彰すべきと思います。
地域のスポーツ団体等に積極的に働きかけ参加してもらい。輪を広げていく
小学校近くの横断歩道の安全確保をしていたPTAが学校の先生中心になったり、冬の消防団により見回りがなくなったり、地域というより、1集団での活動になってきているのは、諸事情でやむをえないと思う。また、地域活動も組・班が高齢者世帯で組長・班長ができないとのことで、次回担当までの間隔が短くなっているのも已む得ない。でも、その中で活動をする必要はあるので、持ち回りで担当するような仕組みがあるといいと思う。
楽しい行事とセットでの活動
若い人に負担してもらうのは気の毒。仕事をしてない人をお願いしたい。少しのお礼を出してもよいと思う。
確かに近所の見守り隊の方々には年配者がほとんどです、しかし若い人は仕事をしているので難しいのが現実です、学校のパトロールのように当番制にでもしなければ無理の様な気がします。それでもやらない、やりたくないのが大多数でしょうけど
消防団活動や防犯活動はPTA等と違い、世代を超えた集団活動なので参加する条件が多岐にわたる場合があります調整に注意が必要だと思います。
難しい問題で妙案がない。
地域の学校やボランティア団体とタイアップして防犯活動+αの取り組みを企画

<b>意見</b>
自治会役員や民生委員があまり活動していない印象なので、これを戸別訪問等により活性化して欲しい。
自分たちがこの地域の一員だという気持ちを持ってもらえるような工夫がみつようだと思います。
防犯活動団体の認知度を高くする工夫が必要
仕事の責任が重くなったり、遠距離通勤や変則勤務等で定期的に防犯活動へ参加するのは難しい年代だと思うが、自分の身を守ることも含めて、地域に貢献する重要性を感じて貰う良い機会でもあるので、若い世代に対する、家庭や職場での啓蒙が必要になって来るのではないだろうか。
参加への情報が無い。
若い世代はまだ仕事をしているので平日は無理だと思う。休日なども活動できるような取り組みを進めていくのがいいと思う。
子供会の父母や、幼児のいる父母に、スポーツフェスティバル等や、夏祭りなどに、子どもと一緒に参加してもらい、徐々に自治会と接点を持つ努力を地道にしていくことが大事。来てくれた若い人には、なるべく、参加しやすいようにひたすら努力することが大切かと思います。
自由な雰囲気。柔軟な対応。
ポイント制にして、出席した場合ポイントがたまる。
自主防衛活動と言っても、自治会活動の一環であるなら、この地域の自治会活動には問題があるので、できれば参加したくない
ボランティアだけでなくポイント制にして一定ポイントが貯まったら、コーヒーなど無料でもらえるなどがあると参加しやすいのではないのでしょうか。
1日参加見学会などがあると入りやすいかもしれません。この内容なら自分でも協力できると思う人もいます。
仕事と活動が両立できるようになること
税金の使い方を含めて、社会的システムとして防犯等の対策を確立し、その不足分があるとすればそれをどう埋めるか、の合意を得るプロセスを丁寧に
地域の一員としての意識づけをしていく。意識づけられる機会を多く持つ。 例えば、地域の催し物(楽しい・楽しめるもの・得・役立つ関心をひくもの等)
お金
人員構成、見回り地域、見回り日時など具体的な情報がないと参加できるかいなか分からない。市のホームページを見てもそういう情報は掲載されていない。
若い人が集まりやすい雰囲気づくり

## 意見

子供の学校からのアプローチ

安心・安全で住みやすい街

参加を強制しないこと

活動の効果や実績を具体的にアピールし、効果的なことを良く知ってもらう。参加により何らかの防犯関連資格を得られる。

消防団のような機能があればうまく回りそう。

活動時間や活動する曜日の工夫。

学校などでのPR

参加日や参加時間を工夫する。

自主防犯活動以前の問題として、高齢化と空き家の増加の対策を！

自治会及び市役所担当者がアパート一人住まいの若者を対象に防犯活動に参加してほしいと頻繁に訪れ参加を促す。もちろん自治会や役所の担当者に時間給を与えて、活動の参加者一人につき報酬を払う。

埼玉県の広報テレビ番組での活動報告など。

自主防犯活動団体の必要性を広くPRする

学校に頼む。学校に赴きPTA(特にお父さん達)に自分たちの子供を犯罪から守るためには、お父さんの力が必要と訴える、ただし、本人の負担にならない範囲の活動をお願いする(PTAは活動が多すぎ、人の都合を考慮しない団体だから)。そういう場でお父さん同士が仲良くなればメッセものです。

若い人たちが取り組みやすい方法で参加してもらう。ユニホームにしても、若い人たちの意見も聞くとか。時間も、曜日も参加し易い時間にするとか。

朝登校の様子を見ていると仕事を持っている人にはきついと思いますので夜間パトロールなどに協力をお願いするといいかと思います。一日中の活動をなされているお年寄りには頭が下がります。

町会活動の中に自主防犯活動を組み入れて活動をする。活動を親子で参加できるようにしたらどうか。

若い世代に参加しやすい曜日や時間帯を考慮する。

## 意見

若い世代の人は自分の生活で大変だと思うので意見は言えません。

若い世代が参加しやすい環境を整えていく。

防犯活動のやりがいアピールする  
「仕事」意識を持ってやってもらうには、報償金を支払う

コミュニケーションづくり・日頃しつこいくらいの広報啓蒙活動

極めて困難な課題だと思います。  
御承知のとおり、定年後も働き続けている人が多いこと、若い世代は仕事や子育てなどに忙殺されていてとてもそのような余裕がないのが実情でしょう。  
先ずは、県職員が率先して参加することが先決ではないでしょうか。

自主防災活動だけでなく、地域のことに関心が薄い。近隣住民との交流が先のように感じる。

地域の交流活発化を通じた告知、勧誘。

体験してもらう

定年直後の比較的若い世代が参加しやすいと思う。現役世代は、直接的な活動への参加は難しいので、心理的な共感とか情報提供的な活動の方が期待できるのではないか。例えば、夜道が暗いので防犯灯を設置してほしいとか、通学路で車がスピードを出し過ぎているのでボランティアの車がゆっくり走りペースメーカーとなってほしいとか、自治会を通してでなく直接行政や自主防犯活動団体に声が届く仕組みを作ったらどうか。

地域の繋がりがないと中々難しく、リーダー的な人物がいると進めやすい

中学高校くらいから授業の中で体験させる。

参加できる時間帯を指定の上、募集する。

生活を維持していくのに大変な世代です。無理に参加してもらう必要はないのではないか

イベントやSNS等を利用して、子育て世代へのアピールを行う。

活動に関して告知不足のような気がします。そして、参加しやすい環境作りが必要かと思いません。

県でやっているいきがい大学、市でやっている高齢者大学、市民大学などの授業の中で実態をPRし参加を呼び掛ける事をやったら良いのでは。  
若い世代は忙しく参加が難しいと思うが、市民大学などの機会に参加を呼び掛ければ良いのではないか。

## 意見

地域に若い人専用の学生寮とか作り、割安にする。又はポイント制を作る

### PTAの参加要請

小さなお子様がいる家庭が率先して活動に参加してもらいたいです。  
通勤往復や買い物途中に我が子と思って見てあげることが必要ですね。

高齢者は暇だから～と頼り過ぎないで。

小・中学校のPTA等を活用して参加者を増やす。

以前小学校のPTA活動で、腕章をつけ数人で1か月に1回ですが1時間ほど歩き回ったことがありました。1年間だけでしたけれど。  
同世代が集まると子供の話など気盛り上がり、楽しかった記憶があります。  
いやいや参加しても、きっと続かないと思いました。仕事ではないので、お金を出すのは違うと思います。ペットボトルの埼玉の水を参加者の方にお配りしたらどうでしょうか。

今、活動の参加している人達が、近所や知り合いの若い人に声掛けをする。

きっかけ作りの窓口を分かりやすく増やす

地域防犯活動団体を都合の良い時間帯や曜日ごとの複数の小グループに分けて、どれかのグループに参加してもらう。参加選択肢を増やす。

難問！じっくりと考えたい

いそがしいとは思いますが、子供を持つ人は月に一度でも見回るなど、順番で…。防犯に役立つ知識を身につける機会ととらえてもらえば良いのでは？

若い世代が参加しやすいような曜日や時間帯の工夫が必要である。

無理をしない、させない。

参加者にスタンプ発行。  
単独、自由な時間にできる行動規定作成。

自主犯罪活動への意義、他自治体の成功例などPRしたらどうか

ポイント制にして、景品など付けたらどうでしょう

気軽に参加できるようにする。

活動日を選択できるように、気軽に参加できるように。



## 意見

若い世代(20代~40代)は、アパートやマンション暮らしで、自治会費も貰っていないのではないかと。広報誌も届けていないと思う。その人達に参加してねは？

参加する人に合わせた活動。(曜日や時間)

行政が今の現実を考えていないのが、一番の問題だと考えます。統計調査においても埼玉県内各市町村に限らず、日本全国で高齢化が進んでいるのを解っていないがらの質問だとしたら、行政の方達の勉強不足です。また、私の住んでいる地域では、日中20代~40代の住民が地元には殆ど居ない現状を考えたら無理です。行政が費用負担をして警察署員を増やすことが一番だと思います。

これからの時代、自治会という集まりに今まで通りに多くのことを望むことが、間違いだと言うことに気が衝かない様でしたら全てが崩壊すると思います。

きちんとやっているのを見れて、効果が有ると認めれば、単に恩恵を受けるだけでなく自らも人の役に立とうとして、自主的に人は参加したくなるような活動をする

社会的な立場の位置づけ

皆にやっているかだの顔を紹介して欲しい。地域の中でどうしたらいいか話す機会もあるとよい

もっと明るく、集団で練り歩くのではなく、またそろいのジャンパーを即刻廃止し、みなに親しみをもってもらうことが、まずしないといけない。

当該活動が有意義であることを、まず小児教育、学校教育のレベルから、繰り返し啓蒙すること。

参加しやすい時間帯にする

啓蒙活動

20代から40代での自主参加を呼びかけるには無理があると思える。もともと意識の低い対象者は興味をもたないうえ、無関心な人が多い世代だと思えますので。

身近な活動を理解してもらうために、多くの場所に掲示広告を出し防犯の大切さを示すことだと思う

ボランティア活動を盛り上げる 機会を増やす

活動の度合いに沿う、市県民税の割引制度を導入する。

- ・自治会活動の活性化。
- ・地域諸活動への参画の呼びかけ。
- ・自治会内の防犯活動のPR等、広報活動。
- ・自治会と学校との連携。

入りやすい雰囲気作り

<b>意見</b>
働く世代に期待すること自体に問題あるのでは？ ライフサイクル・生涯活動の中で、役割分担の位置づけと啓蒙が必要。
いきなり参加は出来ない。 日頃のあいさつ、声掛けが大切。
ローテーションと期間を決めるような工夫
具体的に今地域で何が問題になっているかを示し、それを解決するために防犯活動が必要であるということを地域住民に認識させる。
参加者が希望する日や時間が選べる
わが地域には、警察関係のOBの方がたくさんいます。その方達に特に参加をして頂き、働きかけをして頂きたい。
ポイントなどインセンティブの付与など
住んでいる地域の現状を適切且つ詳細に知らせ、地域のことは地域員が守るとの意識高揚を図る必要がある。
さまざまな参加形態の創出。
広くよびかけ、その意義をPRする
防犯活動をする曜日と時間の工夫が必要だと思います。
まずは地域での声掛けと思います。話すことでお互いの考えを知ることができるので。
一定年齢に達した方に義務化するのが良い。徴兵制がないのだから徴兵制に代わる地域への貢献として実施するのが良い。ボランティア活動の一環として、防犯、清掃、その他のボランティアを実施するのが良いと思う。
元気なお年寄りの参加協力依頼を、声掛けする。
現実的には60代へのアピールが最も有効 若い世代は共稼ぎが多く、土日以外の参加は無理ではないか
具体的な活動の発表をすべき
コミュニケーションUP
時間のフレックスタイム制度の導入

意見
情報発信
愚直に粘り強く活動の意義と参加要請を続けること。共働きや介護、単身生活などで活動に理解を示しても参加(活動実施)に踏み切るのはハードルが高いと思う。
多少のお礼金を支払う。
活動内容の発信。
万歩計などの結果が数値化できるツールを利用して、ポイント制でささやかな報酬を出す
単に団体の数や構成員を増やすことには賛成できない。6000を超える団体の有機的結合を図るべき。
向こう三軒両隣がどんな方がいるのかもわからない世の中を変えていく事が必要では。
老若とわず参加する方には、金銭補助が必要では。
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 気軽に参加できるよう、参加・不参加を当日決められるようにする。</li> <li>2. 参加内容ごとにポイント付与し、一定期間ごとに何かに交換できるようにする。</li> </ol>
警察官の人数を増やし、交番の常時駐在できるようにし、またパトロールを増やすべきである。
若い世代の方は仕事があるので、頻繁には参加できないと思うので回数を月1回、隔月に1回とかにして、負担に感じ内程度にする。
自治会で順番に役割が来ます。積極的に内にしても参加するとその重要性がわかります。ある程度それも必要なと思います。
自主防犯活動の重要性を地道にPRすることと活動の細分化を検討し多忙な人も参加しやすい環境をつくる
若い世代は、現実的になかなか難しいと思いますので、元気な中高年に参加してもらうことはとても良い事だと考えます。
参加者の時間的な拘束があると考えますので、年齢的階層の参加時間帯を設定すれば参加しやすいのではと思案します。
時たま食事を出すのもいいかな
シルバー人材センターの活用
若い人たちは仕事があるので防犯活動に参加できないのは仕方が無いと思います。わたしも仕事の都合で協力できない環境にあります。

## 意見

治安維持は住民の仕事ではなく公共の仕事だと思う。基本的に警察力の強化や犯罪に対する処罰の厳格化(いわゆる「一般予防」)により対処すべきだ。住民はこれに対する協力で十分だと思う。

自治会で強制ではないがある程度当番制にしていく。

コミュニケーションがすべて

すき間時間でも参加できるようにする

回覧板ではなく、チラシ等を一軒ごとに配布する。

近所同士が仲良く話しをして若い世代には負担かけないように1年に1回でもいいと言って参加してもらう

若い世代の人々は自分の生活で精一杯の人が多と思います。～といっても全てシルバー世代のボランティア活動に任せるのはきついです。  
人手不足の問題は市や県など大きな団体で意見交換する場が必要だと感じます。

講習会等で専門的な知識をもっともって教えると良いと思います。ただ年寄りの参加、数合わせでなくです。こういう人を必要としているののほうが参加者が増えるのではないのでしょうか???

PTAに参加登録を呼び掛けては、いかがですか。  
現在、月に一度程度午後の活動ですが、登録メンバーが増える事で2ヶ月3ヶ月に一度の当番でしたら、若い人も参加できるのでは。

地域での同世代仲間づくり(コミュニケーション)を目指し、負担にならない範囲で気楽に楽しみながら活動できるような仕組み?をPRし続けたらいかがでしょうか?。(なかなか若い世代は時間の余裕が無い事は分かっていますが?)

平日のパトロールなどになるから 若い世代には 無理かと。  
どちらかと言うと 若い人には 興味 関心 が無いと思える。  
自治会に協力的な人には 防犯の役を 受けてくれる方が多い。

子供会とか、PTAとかで呼びかけて、親世代が自主的に参加できるようにすると、参加者が増えるのではないか。

気軽に参加できる環境、自治会が特定住民、行政の下請けだ団体に思え魅力がありません。

参加していない立場からは何をやっているのかよくわからない。見回りながら何をしているのか、例えば道路の不安全箇所などを市役所等に連絡して直してもらうなど、が実際に行われているのか?  
成果が部外者には見えていないので活動に参加しようとする意欲が湧いてこない。

## 意見

若い世代の人達は、『地域全体の』という興味は薄れる傾向が強いです。一方で、『自分の子供や家族を守る』という点に関しては当事者意識が強まる傾向にあると感じています。したがって、漠然とした『自主防犯』という呼びかけではなく、『あなたの家族が』犯罪や事故に遭わないための活動であるということを強く意識づけることが、若い世代の人達に参加してもらうために必要なことだと思います。

子供・夫婦などの家族での参加を呼びかける、とか、活動可能な曜日・日程を事前登録するなど方法を提供する。

自治会の回覧板は面倒で嫌い。普段はお手伝いできないけれど会費は払ってもよい。大地震の時に避難所で食事をもらいたい、そうゆうときにはボランティアをします・だけの登録会員もありにしていきたい。

防犯より防災をいっしょに考えるアンケートとか、子どもを守るアイデア募集とか、危険な場所を教えてくださいとかを中学生高校生に具体的にお知らせしてもらって、実際に見て役に立ちました有難うメールを送って地域への参加意識を育てる。

若い世代は仕事で疲れている。また、休日は家庭でのんびりしたいと思います。そこで、企業への協力を～(防犯活動日には勤務時間を短縮するなどの)求めているかがでしょうか。

仕事が終わらないと無理だと思う。

急には無理なので、児童繋がりや輪を広げていくとか工夫が必要。

若い世代のニュースに合わせて、時間帯や仲間を集う。

地域ITアドバイザー就任、市長任命有償  
年寄りがブラブラ歩くだけでなく、カメラWi-Fi、ブザー、ライト、スマホすべて連動させる？

事例を示しての地域講座  
若者バンドを前座としたコミュニケーション

移動が激しい世代なので、この世代は無理と思います。女性の協力を増やす？

参加時間帯の柔軟性、ネットでの連絡網

1. まずは、PRがあまりわからない。自治会の年2回程度の活動しか理解されていません。
2. 若い世代は、子供と一緒に活動する企画が必要です。  
親に自主防犯活動の重要性を教育する。事故を未然に防止すること、自らも子供と一緒に活動が大事であること教育する。
3. 学校での教育は大変影響が大きく重要だと思っています。

その世代の人は仕事と子育てとか みな 忙しい人が多いのでなかなか 参加は難しいと思われる。しかし 小さい子供や小学生の子供さんをそんなシステムは危険から守れるのも事実です。最初は年数回ぐらいのペースで呼びかけて徐々に増やして行くと良いかと思われます。

自分の子供、孫がいたら積極的に活動に加わりたいと思います。

## 意見

私はきっかけがあればすぐにでも参加したいと思っています。  
若い世代は、仕事や学業などで参加する機会が狭められていると思いますので、社会全体で、若い世代に月1回のボランティア活動を推奨し、それなりのメリットが得られるような仕組みを構築することが望ましい。

日頃から地域活動の啓もう、神輿、餅つき運動会など若い人が参加できる機会を増やす。

今後の事を考える

働き盛りの期間は期待できないと思います

普段からのコミュニケーションを良くしていれば参加しやすくなる

駅やスーパーなどで、幅広く周知を行う

自主防犯活動の良さと効果を積極的にアピールする。また広報活動も併せて実施する。

日中の時間的余裕はない家庭が多いが、自治会や学校の集まりを利用して繰り返し訴え、地域の防犯に自分達も参加してもらおう雰囲気を作る必要がある。土日の防災訓練に家族連れで参加してくれている実態もあり、我々60代世代がお膳立てしたり参加者への受け入れ評価もきちんとして子供にも伝わる方策も必要。

治安、社会的秩序を守るのは地域住民の責任と思うのは古い世代だけか？と思うほど住んでいる場所に対する気配りは少ない。(埼玉県はまだある方かもしれないが)、ボランティアを尊敬する、意識を高めることが必要かと思います。もっと参加者にはやりたくない仕事を進んでやることに敬意を表し、表彰制度を活用してほしい。

若い世代は就労との関連で、特に平日の活動が制約される場合が多い。  
就労先の理解および制度が特に必要だと思われる。

何をどうするのかよくわからない。行動内容・位置づけなど広報が必要

高齢者への参加アピールポイント

- ①防犯活動をしながらか歩くので健康増進になる。
- ②1人だけの活動とならないように定例パトロールは3名以上、任意パトロールは個人でOK
- ③1回/月～2か月には警察の方にも同行していただく(指導助言も兼ねて)。
- ④大学生の参加を促す。大学生のいる家庭、独身アパート・マンションにポスティング。

活動が夜間のみや休日のみなど短時間でも可能になれば参加しやすくなると思います。

具体的な効果をPRすれば良いと思います。

手当を出す。

近所付き合いの重要性をアピールする

## 意見

自主防犯活動の行動形態が周知されていない。内容が分からなければ参加しようがないのではないか。そのため、活動の内容や形態(時間帯、曜日、参加の自由度等)を分かりやすく紹介する手立てが必要かと思う。

地域での活動を通して交流が生まれ地域の防犯に役立つ

土日に行く

小生も現役世代のころは、仕事のことで精いっぱいでした。現役世代の方がリタイヤしたころ地域活動に参加しやすい環境を作ることが必要だと思います。

謙虚に行動をして、ある程度見本となる者であれば、自然に参加していく者も出て来るのではないか。

自治会の運営方法の改善

活動内容がSNSなどで広く伝わるようになれば良い。写真などあれば広く伝わりやすい。

具体的な内容、活動時間帯などきめ細かい情報発信を繰り返すこと、また限られた人の活動ではなく、気軽に誰でも参加できることを広報していく。

普段の近所付き合いが大事！

若い人が参加しやすい行事があるとよ、参加のきっかけとなると思う。

休日の活動

難しいですね。現在の緻密な活動を続けるしか無いと思います。

母親世代の呼びかけのために、子育てと一体化した地域防災防犯のイベント講演会の実施。子ども預かりでジジババも動員する。

勤務先の協力が必要不慮過失と思われる。  
その方法として、防犯活動へ参加すると勤務評価をアップすると法改正する、などの国を上げての対策が必要と考えます。

なんか個人のメリットとなる仕掛けを作る。

ある程度の報酬をかंगाえるべき。

地道にな広報活動

働いている人は難しいのでは。

意見
自治会等の会議での積極的なPR
お祭り、学芸会、昔遊びなどをとおして地域住民がみな知り合いだと思えるようなイベントを頻繁にすること
事例等を含んだ広報活動を積極的に取り入れて欲しい
気軽さが必要 ボスが出来がちなので、一工夫必要
わが子を守る為に、参加協力を学校のPTAや自治会の広報誌で呼びかける お父さん、お母さんが参加すれば・・・子供達にもPRし父母が参加することは子供も嬉しいと思います。
私の住んでいる所は昔から住んでいる方が、新しく越してきた人を参加させないと言う地域ですので、自治会行事には常に傍観者です。  若い方の参加者を増やすには、学校のPTAに働きかけてはどうですか？
年代別に参加できる活動範囲(時間や曜日等)が異なると思うが、できる範囲で参加しやすいルールがあればよい
リーダーを作らず自由参加しやすい組織
スポーツや趣味やイベントで人を集め、その中でグループごとに防犯活動の参加を依頼する。
気軽に空いた期日と時間に自由に参加できる工夫があると参加しやすいのでは (時間が決まっているため参加しにくい)
隣組などの班長さんにある程度義務化する。
①少子高齢の時代、行政の教宣と具体的なフォロー(自治会・民生委員など) ②義務教育子弟の保護者・行政の教育機関・教育委員会などの連携 ③高齢者(リタイヤ者)の活用・老人会等の活用 ④広域連合などの取り組み強化推進
若い世代に期待するのは無理では。一家の大黒柱として仕事に専念してもらわなければならない。団塊世代が子供のころは親の世代のひとが仕事をしながら、小学生の登下校の見守りができた。今は通学路で仕事をするのは皆無にちかい。リタイヤした世代に活動してもらえないと思う。
大学や専門学校で夏休み中の自主防犯活動等のボランティア活動を授業として取り入れ、卒業のための必要単位に加えてはどうでしょうか。
活動に参加し易い日時の工夫・設定(昼間、夜間、土曜日、日曜日など)が必要ではないかと思えます。
活動に参加すれば心がうちとける仲間に会える楽しみがあるなら続くと思う。自主防犯活動以前に横の繋がりが必要ではないでしょうか。



## 意見

地域の連携、会合を開き仲良くなると参加しやすくなる。  
若い人に参加してもらうには、初めは簡単な手当を支払うとか、飲み物やお菓子とかあげるとか、見返りが必要かと思う。参加してくれれば、その良さも分かり続けてくれると思います。

活動による成果の、積極的なアピールが必要だと思います。特に若い世代には小さなお子様がい  
らっしゃると思いますので、事故・犯罪に巻き込まれる危険性を。

良い方法がなくて困っている。

自主防災活動の評価・紹介(広報)・表彰等を行う。

シニアクラブ活動等との積極的な連携

自分の経験から言えば、現役時代は活動の時間が取れないのではないか。(都内に通勤して  
いた為に、朝早く出かけ、帰宅は夜遅いので、土曜日日曜日はごろ寝か家族サービスのため)  
活動時間帯を夜(夜回り隊)もあります、そして土・日曜日等を主体とすれば・・・。

子供見守り隊の高齢化はしかたなく仕事を持っている人の参加は無理と思う

手当を出す

私の所属するボランティア組織は、防犯防災を組織的に別々ですが実質一体で企画運営をして  
おります。只、活動は地域住民参加が中心で、毎週水曜日開催している夜間巡回パトロールは  
各世帯に毎年参加要請し3~4ヶ月に一回参加していただいております。  
特に若い世帯の方々は仕事もありますので無理させずに色々な地区行事に参加をお願いして  
ます。  
地域全体で支えることが第一のように感じています。

若い世代は仕事で忙しいので参加は無理。定年退職者の第二の生き方として勧めるほうが良  
い。但、事件・事故に巻き込まれたときの保障をし、トラブルのないように研修をすることが必  
要。

広報活動充実、又なんらかの補助金があつたほうが良い

挨拶運動が一番効果があると思います。私は、見知らぬ人にも挨拶を心掛けています。また、  
保育所に通う孫にも挨拶をするように進めています。最近、見知らぬ人には注意するような  
指導が行われていますが、全く逆の指導だと思っています。

将来に向けてのポイント等での通帳作り  
歳を重ねてから通帳のポイントを使える(自身のために)

高齢化している自治体の中で、若い人たちが移転してきても、自治会に参加する人たちが少な  
いため、まずは自治会に入ってもらいことから始まるのでは。コミュニケーションが必要

広報活動を通して地域の人に知ってもらうこと。仕事を持っている人や子供を持っている人にも  
参加しやすいやり方を考えることで裾野を広げることができるのではと思う。

意見
ターゲットを絞った広報・教宣が必要
子供110番や、小中の育成会活動等との連携や情報交換会等のコミュニケーションを共有化、連携強化を図り、お互いの信頼関係を更に構築する。
若い世代は忙しいと思うので、高齢の人をもっと活用したほうが良いと思います。
保育園、幼稚園、小中学校のPTA会合で必要性を訴える。また、各自治体の催物会場や各イベントなどでも募集活動や広報活動を実施する。
自治会イベントの祭り、観桜会等に若い世代に子連れで参加要請イベント参加より自治会活動の理解を深めてもらう。
何かしらのインセンティブが必要。緩やかな活度参加の仕組みなど。
曜日や時間の規制をなくして自由になる時間帯を選んでもらうようにする
活動参加手当の支給
若い世代への経済支援策や、税制対策
当然ながらその地域の方々からの参加者が良いのですが、高齢者の方の参加は大変ありがたいと、いつも感謝していますが、時にボランティア活動イコール井戸端会議の状況も目にします、若い方々と年配者との調和がとれる組み合わせも必要だと、勝手ながらそう感じています。
年代に関係なく気楽に参加できる環境づくりが必要と思います
自治会の定例会議等で、小中学生の登下校見守り隊活動の参加を促す事を手始めに、自主防犯活動にも誘い込む様にするのはいかがでしょうか？
休日の活動日を増やす。 SNS等のツールでコミュニケーションの活発化を図る。 HP等で活動内容を広報する。
若い世代・・・平日の参加は難しいので土・祝祭日の参加を呼び掛ける。 自治会とは別に学校(小・中学校)の父兄に参加を呼び掛ける。
子どもが通学している学区での防犯活動を入口にしては、如何。 自分たちに直接、影響するもの出ないと価値観を感じにくいのではないのでしょうか？
個人情報の問題もあり防犯は警察に任せておいた方が良い。
・自治会等で「出前講座」等を開催する。 ・身近なひとり一人から地道に必要性を訴えていく。

## 意見

あくまでもボランティア活動であり、強制ではないのです。ですので参加できる方が最優先ですが、地域のきずなとか、ご近所の方同士の意志の疎通など自分が住んでいる地域の安全を自分から守って行こうという意識をもっていただくような広報が必要であり、若い層にはこれからの地域活性化ということで参画いただきたいと思います。

活動の母体は町会・自治会であり、そこは政治的な巢窟となっており、これを打破しない限り若手の積極的な参加はありえない。

自治会内掲示板・回覧板、自治会内会合での直接の連絡自治会内広報紙  
自主防犯活動団体のホームページや県・市町村広報紙、県・市町村ホームページ  
これらを用いて、継続的に、広報活動を実施する。

ボランティアではなくて少々の活動費をだす。

## PR

若い方の参加を望むが、現代社会の忙しさはそれを許されない環境ではないかと思う。かつての地域に根ざした住民の日常生活は崩れ、連帯感の希薄、喪失、核家族化、一人世帯化の現代社会においては、どうこれを克服するかが課題である。  
その対応の一提案として、自由時間に恵まれた高齢者の参加を求めるほかないのではないかと思う。

個人個人の仕事がある年代なので、難しいと思います。

仕事、家事があり積極参加は難しい。

・既存の地域団体の活動に「防犯」も付け加えて戴く。  
消防団の役割に追加する。

自治会で参加を求める積極姿勢が必要です。

高齢化による人手不足は避けられない問題です。仕事世代はなかなか時間が取れないので、自主防犯活動のやり方を、参加者を増やすよりも、省力化と効率UPという観点から見直して行った方が良いと思っています。地区毎の防犯カメラによる防災ネットワーク作りを進め、人手を減らし防犯効果も上げるという方法等、人口減少に見合った方法を検討して行っては如何でしょうか。

高齢者の女性協力者は午前中・主婦の方は買い物等の時間と高齢男性は午後の空き時間、青年の方やサラリーマンの方は土日に協力を願う自治会単位の無理のない当番制を軸に不具合があれば中心となる役員代表が話し合いで調整する。交通安全も火災安全週間も私たちの自治会では大変ですがやり繰りしてきました。

時間が難しい、所属する企業へ県として恩恵を考える

おやじの会やママ友などに積極的啓蒙を図る。

町内会の責任者等が積極的に勧誘した方が良いと思います。

## 意見

これは非常に難しいと思われます。働き盛りで、加えて女性も社会進出が不通になっている時育児も夫婦で大変な世代に求めるのは酷かなと思われます。町会でよく話し合いをするしかしょうがないと思われます。最悪町会内で各年次ごとの強制割り当てしかないと思われます。

活動の広報とイベントなどの開催など、参加するきっかけを多く持つことがいいのでは。

若い人は掲示とか広報を見る機会が少ないと思う。  
仕事が忙しい

参加することに、楽しみが感じられること。

すでに我が地域では町内会が崩壊している。20年前役員をしたが、当時から地元と新住民(マンション・アパート・戸建て)住民とは意識がまったく異なっており、わずかに子どもがらみでつながっていただけ。広報誌もJR駅や埼玉高速駅で手にでき、町会加入以外でも情報は手に入る。そこそこの町会費を払うメリットが皆無。拓印には町会崩壊の意識が希薄で人口増のわが町は早晚組織として維持出来ないだろう。その中で「防犯」意識高揚は難しい。まずは住民同士のコミュニケーション活性化を図らなければ、この運動も一部の住民のボランティアで終わる。

自主防犯活動の必要性とその効果を明確に訴える。  
そのうえで、高齢化・人材不足の実情を訴える。  
参加しやすい時間やローテーションなどの希望をできるだけ受け入れる。

私が住んでいる町内会は高齢化で活動する人が少なく、自治会の役員が当番で活動をしている。

地域の課題であり、自治会との関わりも深いことから、地域の活動、イベント(夏祭り、運動会等)などで防犯活動を積極的にPRすること。

最寄りの警察署や消防署が防犯活動団体をとうして講習会や説明会を開催する。

活動しやすい条件整備

子供の活用も一案かも知れません。

## イベント

私自身65才の時点から自治会活動に参加しているが、若い在职者の方々への参加の呼びかけは難しいものがある。  
いろいろな自治会活動からなんとか理解を持ってもらうことが大事ではないか。

若い人はスポーツに参加するので、スポーツサークルに呼びかけたら良いのではと思います。

自主的に参加できる仕組みを考えて徹底すること。

## 意見

高齢者にお任せしては。

自治会役員が勧誘に出掛ける。

高齢者に適した活動と考えます。  
若い世代のみを対象に参加を促すことは疑問です。  
高齢者の交代(高齢者が辞めたら、次の高齢者の参加)を促進する方が重要と考えます。

自治会の会合で説明する

あくまでも自主的な参加、活動にとどめることが大切。

犯罪や問題事例を実際に即し地域住民に周知・理解してもらう活動を 広報・回覧など  
身近な手法で広めてゆく、また 少額でも謝礼を準備する

活動効果について実績等を含めて明確に知らせて行く。

- ①子供を持つ親には、強く呼びかける。
- ②地域内を移動するとき(散歩等を含む)。皆が防犯腕章などをつける。
- ③社会貢献ポイント制を導入し、何らかのメリットを付与する。

あまり、強制するのは、好ましくないと思う。

自治会で防災活動のサポーター募集しているが中々集まらないので個別に折衝して要員確保しているのが実態。又、学童の見守り活動では子供会の役員協力に基に活動している。

普段から活動に参加してもらう

自治会での呼びかけが効果的だと思いますが、時間及び休日夜間等の活動の範囲を拡大して活動しやすくする。多の人数を確保しておいて月1回でも活動できるようにしておく負担がなく参加できると思います。

子供会等と連携していく事が良いと思う。

自分にとってメリット・魅力があると感じられるような取り組みが必要。

地域社会の絆を深める活動は種々あるので、自主防犯活動団体だけに拘る必要はない。地域の防犯は警察等を含めた行政が、先ずその役割を果たすべきで、次にそれを補完し且つ住民との協働による活動が望ましい。

自主防災会や自治会を通した地域のリーダーの養成が必要だと思います。

自治会である年齢になったら(例えば50才)になったら役目として一年間行う決まりにする。

## 意見

参加者の空き時間を活用しての参加を促す。無理強いではなく、月に一回でも良いとする事。

私は、地域の防犯パトロールをはじめさせて頂き8年になりますが、地域の防犯は皆で守るんだという意識(自主は低いのが現実です)。その為、自治会と連動し当期の役員・班長とともに活動していますが、自主とはいえわずかなりとも有償は必要と思います。

横のつながりが希薄になってきているこの時代なかなか地域の活動に参加することが難しくなっているように感じます。これと言った解決策はないように感じますが、地道に会の活動をPRして賛同者を増やしていくことが大切だと思います。

若い世代は、通常勤務で週末のみしか参加できないのが状況ではないかと思います。専業主婦などに積極的に参加をお願いしていくのが大切と考えます。

広報の充実 地域内での当番性

高齢者のボランティアに参加する意識を高める。  
高齢者の意識を向上するため地域行政で勉強会を開催する。  
若者たちの参加して貰う時間帯を考える。

子供時代からのボランティア活動への理解の向上。  
短期・spot by spotのflexibleな参加を可能にするプログラムを広く公募・広報

安価でも活動に対する対価が必要ではないか？

自治会が機能していれば解決すると思う。

団体の指導者が直接若い人たちと話す機会を増やし訴えていくことが重要と考えます。回覧や広報誌以外に顔と顔のコミュニティ活動を提案します。

高齢化社会と防犯環境の強化のためには、地域の防犯活動の推進は県や市町村からの要請と警察からのボランティア活動等の自主協力要請による取り組みが重要です。

時間と体力があれば出来るけど、現役世代は自主活動ですから日常生活の中から注意を向けてもらいより仕方がないのでは、、、と思いますが、、、

自主防犯活動団体をもっと活動状況を広報していくこと、一般の人たちに知らせることが大事。

県・市町村に地道な意識改革

呼びかけが効果あると思う、参加したくてもきっかけが掴めない人がいると思う、自分もその一人です。

自治会を中心に活動するのが良い

## 意見

難しい質問ですが、最近の若者は団体行動が苦手みたいですね！町内の回覧板などで回しても効果は少ないと思います、団体役員が町内の若者が居る家に直接お願いに行き同世代の若者が参加していることを伝える地道な行動が求められると思います。

近隣住民同士の日頃の声掛け。特に、小さな子供の事を大切にする声掛け。

民間のボランティアとはいえ、行政として何かインセンティブを与えてほしい。例えば「長寿応援手帳」のようなものを出してやりたい。

全国的な取り組みによる成果を見える形で掲示、広報などで告知する。

町内会の集会などを活用し、活動の広報、研修会の開催などして、活動内容の周知を図る。

ただ、募集しても参加者同士のコミュニケーションが取りにくいとおもいますので、地域の自治会単位で参加者を募集する。

……消防団と同じ  
子供と一緒に防犯活動をする。

時間のある比較的年配の人が、自身の体のために自主的に参加すると思います。

誰でもできる環境づくり。  
特定の団体の宣伝活動に使われることの無いように気を付ける。

広報活動がよいと思います。

消防団員やスポーツ少年団等の組織に所属する青少年等に期待したい。

学童の居る家庭(家族)の協力を求める。

地域のコミュニケーションを良くする。その為に地域の任意団体である、子供会、老人会、趣味の会、ラジオ体操の会、夏祭り等を活発に行う。その費用の一部を行政が負担して欲しい。

若い世代の参加が必要ですが、なかなか難しいです。自治会の役員等に若い世代は参加しない、何か取り組みへの工夫がありませんか？教えて下さい。

## セミナーの開催

町内会などを通して地域の連帯感を高める。

参加に無理のない組織作り。月に1回でも2カ月に1回でも、あまり義務感を強制しない。都合のいい時に参加してもらおうような、オープンな組織体が良い。

参加の曜日・時間についての配慮が必要。

## 意見

20代～40代の方の活動参加者には、謝礼を支払うことが必要ではないでしょうか？

自分も高齢になり活動に参加したいが少々ためらっている。  
質問の参加して頂くのは?しかないと思います。

自主防犯パトロールの効果について住民に知ってもらい、防犯活動の参加は本人の自由にして参加できるときに参加してもらい。  
犬の散歩をしている住民に防犯パトロールのタスキをもらい行動してもらい等。

地域の活性化に関する活動を活発化するための推進行事、  
高齢者の参加と活用・指導推進。

難しい問題で、良い考えがみつかりません。

多くの世代が集まって議論する機会をもって、納得のいく形を大切にして欲しいものです。

見回り隊の頻度を上げる

活動内容の紹介、連絡先、子供の参加の検討。

地元の企業などに協力を求めても良いのではないかと思っている。

特に、名案は、思い浮かびません。『あらゆる機会に話す。』ではないでしょうか。

必要性をはっきり。年寄りがおしゃべりしながら歩いているだけでかっこよさや歩いた時だけのよ  
うに感じる。

若い世代が参加出来る雰囲気づくりが必要だと思います。共通の参加しやすい運動。

自治会の回覧板等の呼びかけが良い。

難しいが説得しかありません。

若い方は毎日忙しいので自主防犯団体の必要性を知ってもらたため先ず自治会などで回覧など  
で知らせたり警察、市役所などに協力をお願いし犯罪の実例などを話してもらい犯罪を事前防  
止するために多くの人に参加してもらい集いを開催し根気よく勧めていくことが必要ではないで  
しょうか

子供の見守りに関しての感想です。  
20代だと、女性なら良いかもしれないが、男性だけでは、逆に怖い感じもする。  
40代で、誰々のお母さんとか安心を持てる人は、なかなか見つからないと思う。お勤めが多い。  
やっぱりある程度年齢を重ねた人の方が、安心感がある。



## 意見

手段は多種多様で良いと思います。防犯活動だけでなく、地域の事は地域の住民で工夫して行動する意識を広める事が必要だと思います。

高齢者に、昔のムコウサンゲンリョウトナリの再生を図り、地域の助け合い、互助精神の再生、育成を図る全県的な行政キャンペーン実施。

自分のできる範囲で少しでもいいから若い力に声掛けをしていきたい

- ・具体的な活動内容・状況を知ってもらう為の分かりやすい広報
- ・増加するリタイア人材への“生きがい活動”としてのPR
- ・活動団体やグループ・個人を顕彰する

説得以外にはあまり方策が見つかりません

更なる啓蒙活動を

現役世代は自首防犯活動への参加時間(平日昼間等)が制限される。なかなか参加することは難しいのではないかと。

難しい問題であると実感する。先に触れた様に、地域の防犯パトロールに参加しているが、高齢化している。実際私も今年は77才になる。埼玉県が一般的に、東京圏への通勤圏にあり、壮年が帰宅するのは夜遅くなる。従って、高齢化はやむを得ない。更に定年の延長でその傾向は強くなっているのも事実である。唯それでも、高学歴者ほど参加しないという状況もある。行政のアピールが不足していると感じる。

現役で仕事をしている方は週末から休日と限定されますので、大変なことと思います。その2日の中、月1日でも出て頂けるよう呼びかけるのも、一つの方法かなと思います。

認識の共有と理解が可能かどうか 進んで参加をきぼうするか  
結局となり近所がまったくわからない状態では無理です。公で対応が必要です

身近に防犯パトロール隊がありますが、高齢化と人材不足に悩んでいるようです。自治会とも連携して、参加時間や範囲を工夫するなど若い方が参加できるような仕組みづくりは必要だと思います。

私の住んでいるところは回りはほとんど高齢者で、防犯活動に参加するのは無理がある。従って防犯活動はもっと広域でやる必要があり、そのためには市・地域警察の旗振りが必須である。

健康で時間的余裕のある高齢者はいるはずでなるべく制約を緩めた形がよい

- ・若い世代への啓蒙(・必要性和効果及び住民の感謝)
- ・自主防犯活動に対する住民の理解と敬意

若い母さんは朝の通学の見守りに活動されてますが、下校時にも自主防犯活動団体にもっと参加して貰える様に声かけをしたい。

<b>意見</b>
参加できる曜日や時間の設定を考える
参加者にポイントを付与すること やり甲斐のある支援体制を整える
広報活動を活発に行うことだと思う。特に活動内容をPRする必要がある。
若い世代は仕事で生活を守ることで精一杯です。 商店街が衰退して、昼間に若手がまちに不在。 商店街活性化に力を入れて跡継ぎが店を継いでもらう工夫が必要です。 消防団もしかり。
ボランティア活動の有償化
地域によって年齢差があり一概には難しい面もあると思いますが、 若い方の参加は強く望みませんので、お金はかかりますが、外部委託などによって賄わざるをえないのかと考えます。
子供たちと接点がない場合はこの活動に対する参加意欲は少ないと思う。子供たちとのコミュニケーションをどうやって作れるかがキーとなると思う。
隣組のような組織があれば参加しやすくなると思います。
行政が出来る限界を明確にする。個人で守る範囲を明確にする。その間を防犯活動隊が行う。 そのためには若い人の協力が必要と「きちんと」理由つけて、参加の「義務化」も考える。
昔と違って今の若い人の仕事は、休日が多くなっている代わりに、平素の仕事はハードになっているので、若い人に呼びかけてもなかなか参加してくれないのが実情である。従って無理に若い人に頼もうとせず、高齢者でも元気な人であればパトロール等はできるので、年齢を問わず参加できる人をお願いするのが良い。
多くのボランティア活動共通の悩みだと思います。個人プレーの世の中、を若い世代の参加をシニア世代が頑張る姿を見せるのがいいのかと思います。
若干の報酬かな
無理をしないで参加できる体制作り
時間
現在では、65歳まで勤務の人が多く中で、若年者を探すのが難しい現状ですが、飽くことなく啓もう、勧誘を繰り返すしかないと思います。
活動の意義が広報される必要あり。

## 意見

市町村の開催する行事などで 防犯団体への募集活動

自主防犯活動の自覚をもって行う。

日頃より自治町内会での活動の一環として位置付け、みんなが交代で活動に参加するよう、より一層の啓蒙活動努力が必要である。

1. 職住接近
2. 地域での顔合わせができる不断のイベント

活動の報告会に出す

優しく、丁寧に根気よく話の輪を広げることです。自治会の役員選びのように高圧的、強制的ではなく、自然の輪で話が出来ることが大切です。

私も高齢者の見守り隊ですが 現在の父兄は共稼ぎが殆どなので仕方ないのでしょう。理想は保護者次にPTAでカバー出来ればベストですが。

若い家庭では供働きのが多く、昼間は留守の家が軒並みです。住民が自治会活動に参加できる催しを検討して、住んでいる処を身近なものに感じられると垣根が低くなるかもしれません。

子育ての一環とする

活動日や時間帯ごとに参加者を募る。

参加者同士の親睦が図れるようなことが必要だと思います。

過去の活動状況の報告、マイナス点とプラス点を説明する。

自主防犯活動団体のホームページ、SNS等々での情報発信や参加募集

各学校のPTAなどで呼びかける

自治体などが積極的に参加を呼びかけること。  
特に学童がいる家庭に対して。

無償のボランティアではなく、例えば、1回参加すれば図書券などを配布する。

## 意見

若い世代の参加は、休日の参加に限られてくると思います。昨今、法人では、社会参加や社会貢献を奨励しているところもあります。そこで、県から法人に対してタイアップの呼びかけやピールをしてみたいかかでしょうか。

法人の自治会への参加促進を図り、都市部の防犯に参加してもらうのも一つの方法だと思います。

市報で活動紹介や募集を記載

防犯パトロール隊には年寄りがほとんどで若い人が入ってこない。

若い世代の参加を歓迎したい。

最初、理解、定着するまで、町内会で持ち回りで当番制にして理解、協力を醸成するまで行う。最初は、班を多くして担当地域を狭くする。

矢張りボランティアでは無理です。然も無料では駄目です。防犯に強力な若い力強い人を入れるなら市の負担(住民負担で)入ってくれそうな月額を添えて募集すべきです。

高齢者の防犯安心度は高いが体力的には無理な点、又昨今、若い人は共働きで多忙、若者達の防犯信頼度も薄れた感もあり、安心安全危険度を任すには、セキュリテ企業に協力して頂く制度を考慮し、その中で中後年者の協力をお願いしていく制度を考慮検討したほうが良いのでは……。

何もしないでいては安全はない。安全活動をすることで犯罪者の犯罪行為を防止できていると思う。

町会の各種行事で住民に呼びかけを行う

若い人達にもっと広報活動が必要と思われる。

町内で輪番制を行う。

若い世代の意識改革が必要。

事故や事件が発生すれば自主的に活動に参加する人も出てくるが、平常は活動の成果が見えないことから参加者も減っており、防犯活動を止めても仕方ないといった風潮がある。健康維持を兼ねてパトロールをしてもらえるように仕向けているが、継続せず終わることが多い

安心、安全に対する啓蒙活動

防犯活動への参加時間帯を広く、例えば自宅に居る高齢者さんは昼の時間、サラリーマンなどお仕事をもってる方は夕方からなど参加しやすくする。

顔を合わせても知らないふりして、煩わそうな態度をされる。昔はすべて良いとは言わないが、挨拶をしても、会釈位はしたものです。かかわりたくないのが嫌に思える。

意見
教育
私の若い時代は仕事に追われていたので参加できる時間があまりなかった。それは、今の時代にあってもあまり変わらないのではと思う。どのようにしたら参加してもらえるか思いつかない。
町内会運動会や盆おどり会などの集まりを利用してPRする。
自治会の呼びかけ、特に活動に参加している人の近所への呼びかけ。
被害者になった方たちの体験談を聞く機会をつくり、自分の家族等に被害があつてからでは遅いということ啓もうする機会をつくり、また、被害者のいろんなサポートをして自主防犯活動の宣伝をしていく。
自分の住んでいる住宅が高齢化に伴い若い人がいません。自主防犯活動も大勢でやるしか方法がありません。止むを得ないのでは、、、。
市による啓蒙、輪を広げる広報活動、呼びかけ。休日の実体験を通じて、参加者を募る。
自治会や市・県の掲示板・回覧板・広報などでのPR活動が大切だと思います
自主防犯活動団体とは、どういう法的根拠にもとづいているものなのか、わかりません。
自主参加性
非常に難しい問題です。安全面、行動計画で成功している団体からの紹介、検討の場をつくる必要があります。
もっとPRを繰り返し流す。
いい考えは浮かびませんが、警察がバックになって募集すればどうかな！ 応募して行動した時 安心できる気がする。
日頃の近所付き合いをして情報交換をやる
広報活動の徹底、参加しやすい時間割
活動の内容がわからない。
若い世代は休日の参加者の活動を期待しては!
男性だけでなく女性の参加も望ましい。

## 意見

広報誌等で具体的に活動の実態を知らせて参加者を募る。現在はそれが為されていないように思います。

積極的な啓もう活動。

やはり活動しやすい時間帯の設定が重要です。

特に、若い世代に期待しないで、主として元気な高齢層を参加対象にするのが有効だと思います。ただし、警察の下請け的な実態だとしたら、芳しくない。

特に見守りたいなど暇つぶしでやってるように思われる。見守りも、自主防犯も参加するからには規範に基づく活動でないと参加したくない。  
例えば警備員のような規律を持った立哨をやるようにして貰いたい。

押し付けでなく、自主的に気軽に参加しようと思われる雰囲気重要

通信会社の肩を持つ現在のやり方は、間違っています。

若い世代は子育てが中心だと思いますので、子供達を守るために参加する工夫などを呼びかけるきっかけにしたいものです。

## 広報活動

気軽に近所だけでも参加できるような環境づくり

## 費用弁償

例:お茶代や年間皆さんで懇親会などをする費用を予算化するなど

○自治会や子供会からの協力依頼

○子供の親がもっと防犯活動に関心理解を持つこと

登下校時防犯活動をしていてもご苦労様ですと声をかける親がほとんどいない

やはり積極的な情報交換がなされ(自治会の会合などで)若い世代に引き継いでもらうことではないでしょうか。

市町村のサークル活動に呼びかける  
大学生の力を借りる

自治会における班別当番制、仕事との両立を図る為、証明書による代休、早退など認めることにする。会社と行政の協力関係を構築する。

質問11、その他の意見と。

地元の人と移住者との関係改善を? どうしたら良いのやら?? 答えが出ない。

学校やユニークな方法での勧誘を勧める。

若い人たちとの、接触の場がなく、考え、行動を、知る機会が無い。

## 意見

自分はもう高齢者になりましたので参加はしたいと思っておりますが無理でしょう、若い年代の人が気楽に参加出来る環境作りが必要かな？

高は齢者、老人はフリーの時間が多いのでこの人達の活動をもっと積極的に参加してもらおう。

街を明るくすること。圧倒的に暗いことが犯罪を助長している。活動団体会員の高齢化を考えればロボットや防犯カメラを使うなど、機械警備にシフトすべきだろう。

今の若い世代は地域の活動にはあまり関心がないので自治会の規約で決めるのが良いと思う

まず、直接候補者への情報提供、勧誘。

町内会や自治会などで積極的に組織化を図る。

20～40代の働ける世代は、まじめに仕事に励むことが良い。  
年金生活で暇を持て余している世代を引き出すことが良い。

私は、後期高齢者で前の質問の答えていましたが・・・なんと返事をして良いのか。

特に若い世代(20代～30代)の人は、ウイークデイは無理だと思うので土曜日曜の休日の防犯パトロールに参加してもらい、前期高齢者の方に子供の見守り活動を行って貰うなどのすみ分けをしたほうがよい。  
地域コミュニティの活動が重要であると思うがニュータウンや団地には無理がある。

若い年齢層は仕事をしていて負担が重いと思います。定年退職者、子育てが終わった人など活動に参加するように仕向ける。男性は退職後テレビ番組が多いといわれていますので外に出る良い機会と思われるので積極的に参加を促すことが必要です。

町内回覧などで募集する。

地域内住民間の相互連帯感を育てることが必要と思います。日頃のお付き合いの機会を増やしていくようにする。

熊谷市報で募集する。

市町村の広報誌でPRを徹底する。

謝礼を払う。

そのような活動があるとは今までに聞いたことがない。ということは自治体にも本気で取り組みたいという意識はないのではないか。原点に立ち返って、自治体の中での位置づけを明確にして、他の活動との連携、住民への呼びかけ、警察との連携や指導も考えるなどのやる気を示さずに住民丸投げでは効果的・継続的活動ができるとは思えない。

## 意見

先ずは地域での集会時や各種広報紙での現状報告。  
特に若い世代への参加者には、参加毎にポイントを与え、年度集計ポイントで何らかのお礼品を与えることも必要なと思う。

商工会議所、商工会等の会員に働きかけるのが、効果的だと思います。

自治体の広報などで周知を図りながら、防犯活動は、居住者の義務的な感覚の徹底をすすめて、こうした活動は、特別なことでなく、居住者の日常の行動の一部という感覚を広げていく。

活動そのものについての情報・知識を知る機会がないのが現状、もっと広報・PRに工夫をすべきだと思いますが・・・

市町村の市役所および役場からのお願い。特に小学生を持つ母親に。時間帯からして勤めている人は無理でしょう。

地域には各種のスポーツや文化活動団体があるので、そこへ働きかけてはどうか。

世代間交流行事の実施

どのような活動を充分知らせる事と思います

若い方々の自治会への参加が少なくなっています。  
まず、自治会に入っていたいただくのが先決でしょう。

ある程度の手当てが必要

常時参加している家庭の町内会会費あるいは市税減免を検討する。或はポイント制を導入して全員で謝意を表する方法。

児童生徒らを養育している方々にぜひ参加するように、呼びかけることが必要ですよ。

難しい問題。  
基本的には、遅くとも中学時代からの地域貢献の大切さが、教えてこられなかったことにあるのでは。

転入者が多い当該地区においては個別に依頼に回ることが関心を寄せていただくには不可欠だと思う

高齢者であるのですが、'守られる'より'守る'方にありたい。そのためには該当グループへの呼びかけを日常化させて、目的を具体化しての体制づくりを考えてゆくようにして公的機関をトリガー役にして考えて行くようにする。

関心があっても、実際に活動に参加するのは難しいところもある。いかに"自主"とはいえ、報酬のようなものも必要ではないかと思う。



## 意見

PR

自主防災の目的  
現状の効果  
人材不足の訴え  
希望者の受け入れ方法の明確化

各家庭になかで参加する意思、参加できる回数・曜日などをきめ細かく分析して地域の防犯活動の方針を立て着実に実行に移してゆくこと。  
参加するチャンスを広く広報、呼びかけを行うこと。

私は高齢であり制服は着ないが適宜町内をパトロールしています。  
時々見慣れない人がウロツイテいるので声をかけ退散してもらっています。

防犯意識の向上には、地域の安全を守る意識を学校教育でも組み込むと良いのではないか。

自治会のPR、参加し易い時間、曜日と子供会の協力要請。

あらゆる機会を通じ、全市民の防犯意識の向上を図ることが先決。

行政の積極的な呼びかけ

高齢でも活動できる人は頑張る。

特にありません。

身近なもの、例えばゴミ収集所の美化等も取り上げ、PRすることが必要。  
しかし、自主防犯活動は、若い世代でなく、高齢世帯でよいのではないか。高齢者のみでも十分役割は果たせる、と思う。

80才を超えてしまったのでかえってご迷惑になるのではないかと心配している。

以前は町内に個人の商店があって、町の情報がお買い物に行く度に聞けたけど、いまは個人の商店は段々へ廃業して、スーパーなどによって変わってきています。感じることはスーパーさんはお祭りや町内の催し物には積極的に参加していないように感じます。スーパー。郵便局。銀行などの金融機関など人の集まる機関が協力していただければいいようにしたら・と思います。

定年退職後の、比較的健康で時間に余裕のある方に参加して戴いています、

昔、隣組で順番でみまわりをしました。近所の絆を強めるためにもやったらどうか、

お互いの地区意識を高揚するという‘意識の涵養’以外には考えようがないが 残念ながら難しい所のほうが多いのではないかとと思われる

情報提供。